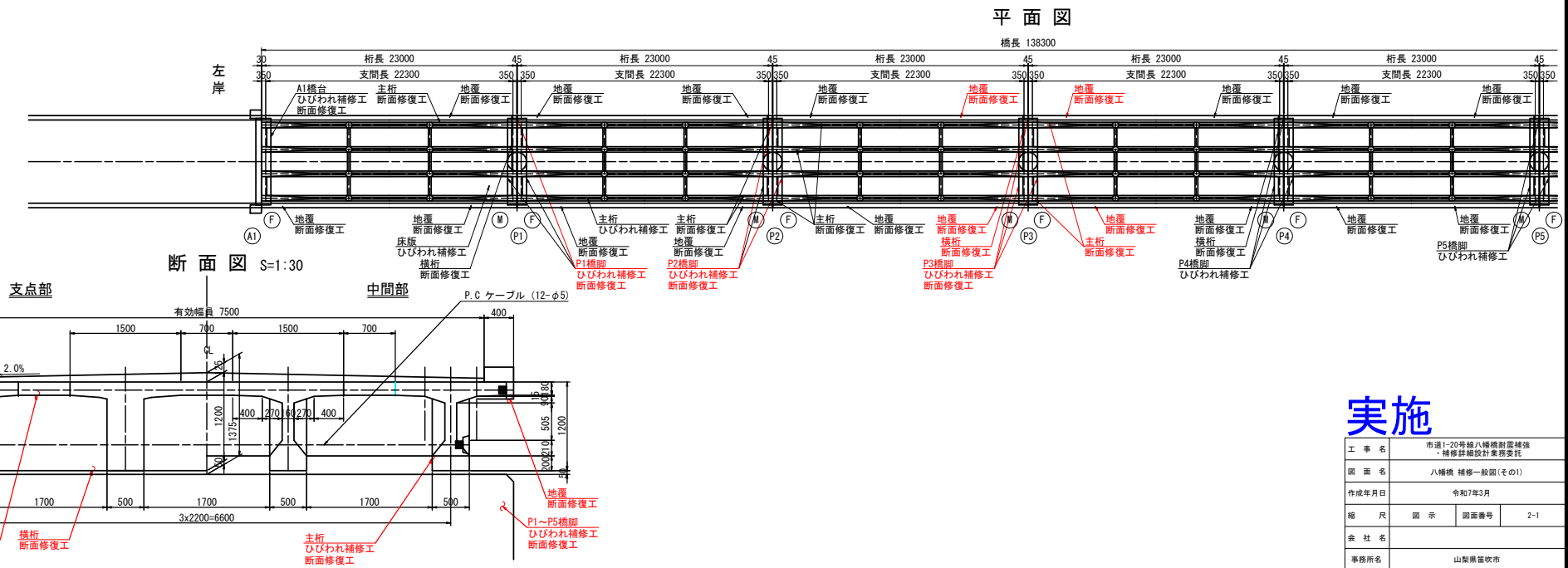
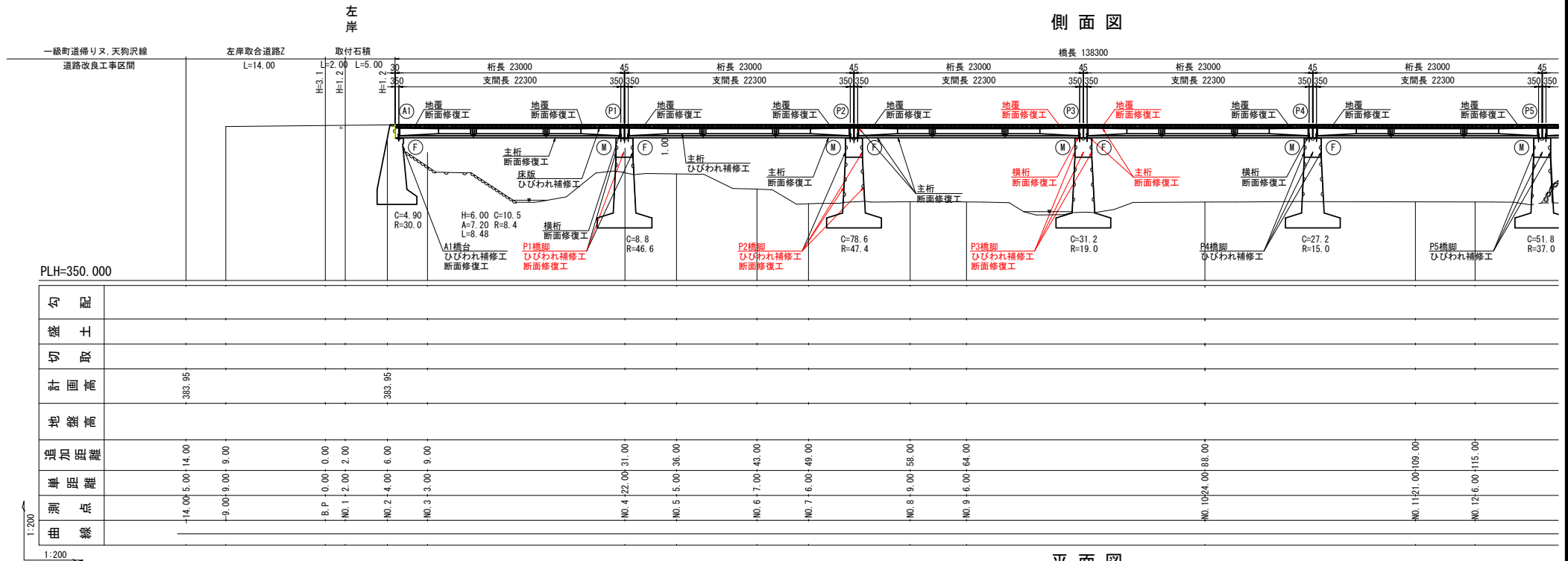


八幡橋 補修一般図(その1) S=1:200



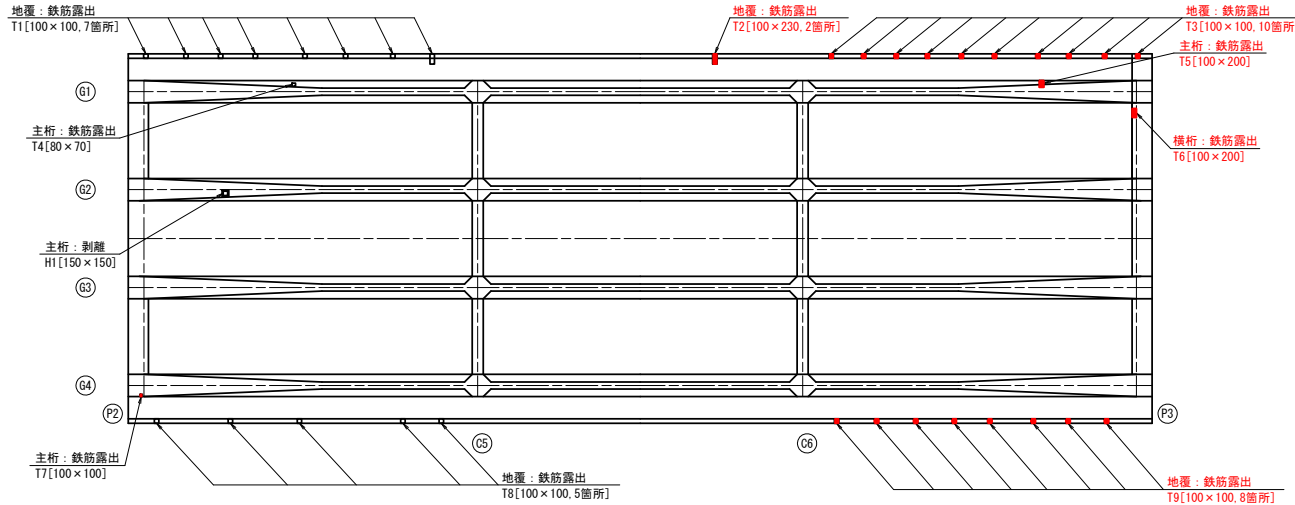
实施

工 事 名	市道1-20号橋八幡橋耐震補強 ・補修詳細設計業務委託		
図 面 名	八幡橋 補修一般図(その1)		
作成年月日	令和7年3月		
縮 尺	図 示	図面番号	2-1
会 社 名			
事務所名	山梨県吉田市		

八幡橋 上部工補修工(その2) S=1:60

桁下(第3径間・第4径間)

平面図
第3径間



第3径間 断面修復工A 数量表

部材	No.	補修範囲 (mm)	補修深さ (mm)	箇所	V (m3)
地覆	T1	100 × 100	70	7	0.0049
地覆	T2	100 × 230	70	2	0.0032
地覆	T3	100 × 100	70	10	0.0070
主桁	T4	80 × 70	70	1	0.0004
主桁	T5	100 × 200	70	1	0.0014
横桁	T6	100 × 200	70	1	0.0014
主桁	T7	100 × 100	70	1	0.0007
地覆	T8	100 × 100	70	5	0.0035
地覆	T9	100 × 100	70	8	0.0056
合 計					0.0281

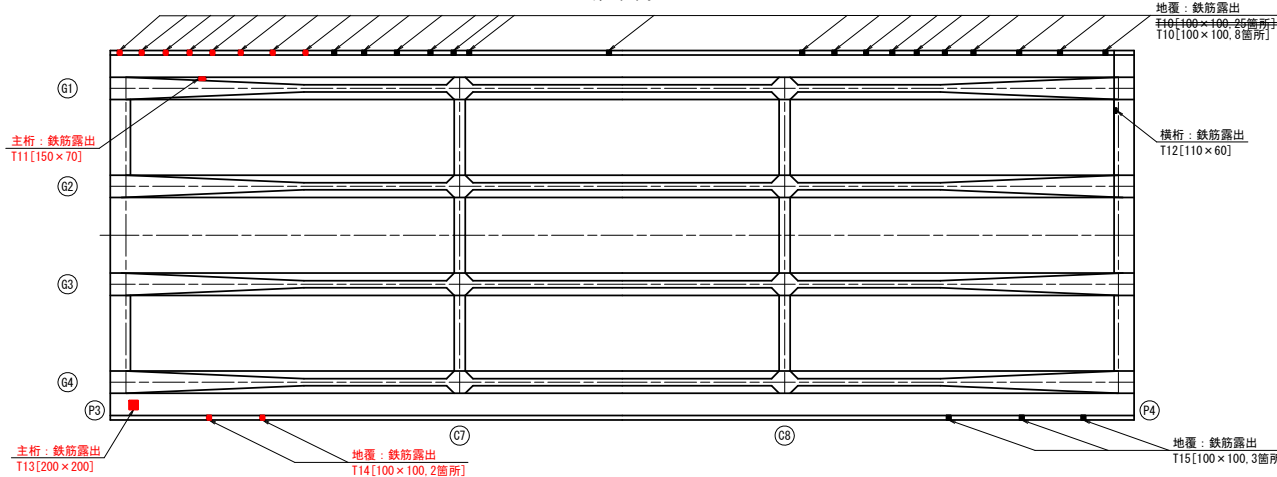
第3径間 断面修復工B 数量表

部材	No.	補修範囲 (mm)	補修深さ (mm)	箇所	V (m3)
主桁	H1	150 × 150	30	1	0.0007
合 計					0.0007

第4径間 断面修復工A 数量表

部材	No.	補修範囲 (mm)	補修深さ (mm)	箇所	V (m3)
地覆	T10	100 × 100	70	25	0.0175
主桁	T11	150 × 70	70	1	0.0008
横桁	T12	110 × 60	70	1	0.0005
主桁	T13	200 × 200	70	1	0.0028
地覆	T14	100 × 100	70	2	0.0014
地覆	T15	100 × 100	70	3	0.0021
合 計					0.0251

第4径間



損傷の凡例

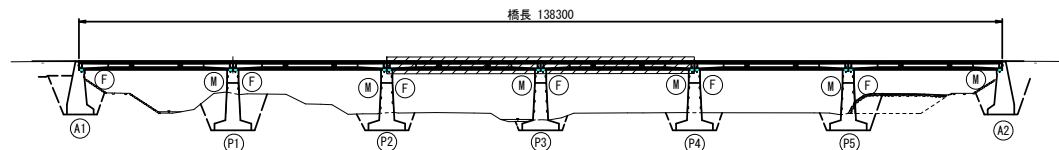
損傷の種類	表 示
剥離	H
鉄筋露出	T

実施

注記)

- 断面修復、ひびわれ補修の範囲は、「既往点検データ」「現地踏査」等に基づき決めているが、工事に際しては、劣化範囲の進展の可能性があるため劣化状況を確認すること。
- 本図に示した箇所以外で同様の損傷が確認された場合や、欠損部にて鉄筋露出が見られる際には、監督職員と協議の上同様の対策を実施すること。
- 脆弱部ははつり落とすこと。
- カッター工、はつり工の施工に際しては、既設鉄筋等を傷つけないよう注意すること。
- ひびわれ注入工の数量は想定深さで算出している。工事では、実際の使用量等で管理し、監督職員と協議の上、変更すること。
- 補修深さは現地確認の上、必要に応じて変更すること。

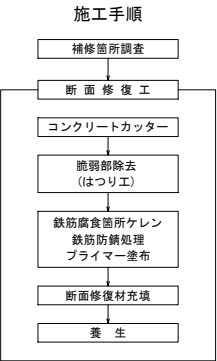
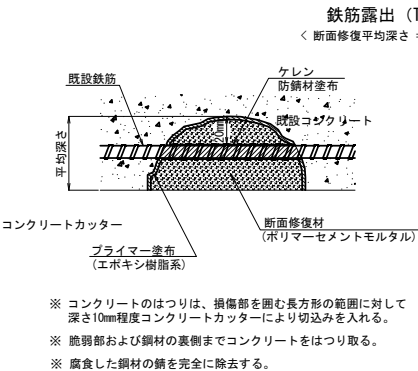
配置図 S=1:400



工 事 名	市道1-20号線八幡橋上部工補修工 ・補修詳細設計業務委託		
図 面 名	八幡橋 上部工補修工(その2)		
作成年月日	令和7年3月		
縮 尺	図 示	図面番号	2-4
会 社 名			
事務所名	山梨県笛吹市		

八幡橋 上部工補修工(その4) S=1:10
断面修復工・ひびわれ補修工：各部詳細図

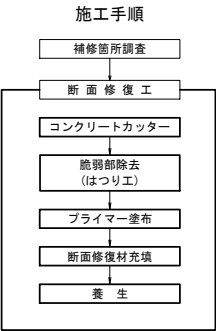
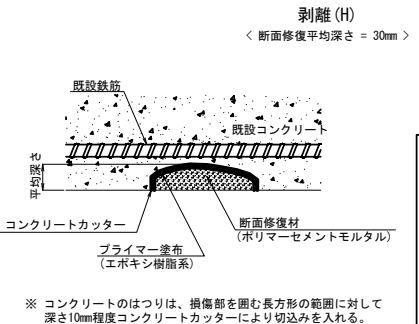
断面修復工A詳細図



断面修復工A 数量表(鉄筋ケレン・防錆処理含む) (1橋当り)

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
コンクリート敷処理	無筋	m3	0.1206	般運搬含む 参考重量 0.2773t
断面修復材	ポリマーセメントモルタル	m3	0.1206	

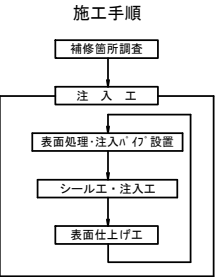
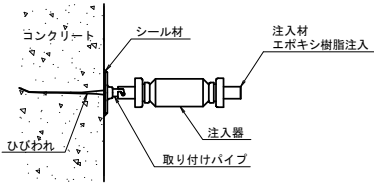
断面修復工B詳細図



断面修復工B 数量表(鉄筋ケレン・防錆処理含まない) (1橋当り)

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
コンクリート敷処理	無筋	m3	0.0052	般運搬含む 参考重量 0.01196t
断面修復材	ポリマーセメントモルタル	m3	0.0052	

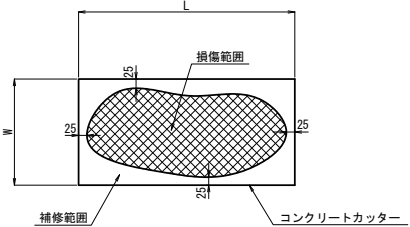
ひびわれ注入工詳細図
(自動式低圧注入工法)



ひびわれ注入工 数量表 (1橋当り)

工 法	名 称	単位	数 量	備 考
自動式低圧樹脂注入工法	施工延長	m	3.000	
	注入材	kg	0.50	エポキシ樹脂
	シーリング材	kg	0.63	エポキシ系
	注入器具	個	10	0.3m当り1本

断面修復範囲図



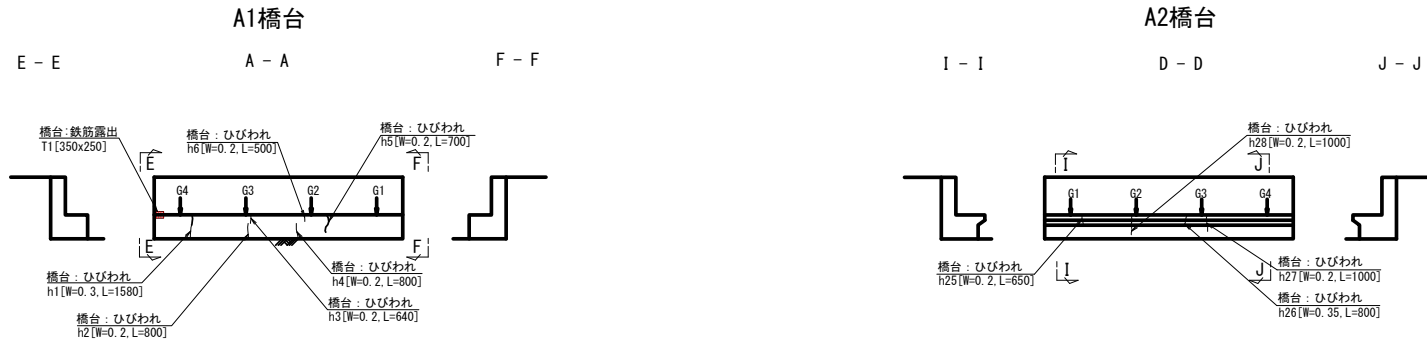
※損傷部より25mm程度の余裕を確保し、5cmラウンドの長方形の範囲に対して断面修復を行う。

実施

- 注記)
- 断面修復、ひびわれ補修の範囲は、「既往点検データ」「現地踏査」等に基づき決めているが、工事に際しては、劣化範囲の進展の可能性があるため劣化状況を確認すること。
 - 本図に示した箇所以外で同様の損傷が確認された場合や、欠損部にて鉄筋露出が見られる際には、監督職員と協議の上同様の対策を実施すること。
 - 脆弱部ははつり落とすこと。
 - カッター工、はつり工の施工に際しては、既設鉄筋等を傷つけないよう注意すること。
 - ひびわれ注入工の数量は想定深さで算出している。工事では、実際の使用量等で管理し、監督職員と協議の上、変更すること。
 - 補修深さは現地確認の上、必要に応じて変更すること。

工 事 名	市道1-20号線八幡橋制置補強 ・補修詳細設計業務委託		
図 面 名	八幡橋 上部工補修工(その4)		
作成年月日	令和7年3月		
縮 尺	図 示	図面番号	2-6
会 社 名			
事務所名	山梨県富士市		

八幡橋 下部工補修工(その1) S=1:100



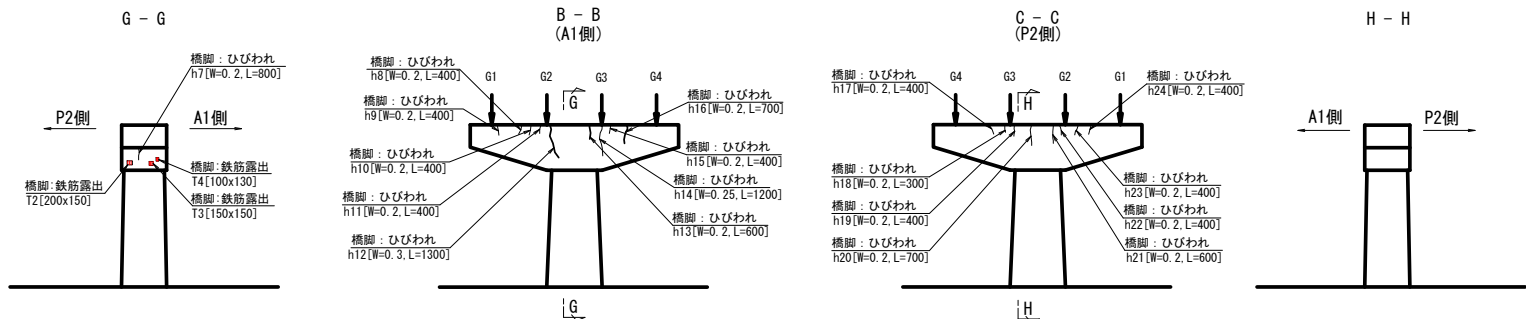
ひびわれ注入工数量表
(0.2超過～0.5mm未満)

部材	No.	幅 (mm)	本数	延長 (mm)
橋台	h1	0.30	1	1580
橋台	h2	0.20	1	800
橋台	h3	0.20	1	640
橋台	h4	0.20	1	800
橋台	h5	0.20	1	700
橋台	h6	0.20	1	500
橋脚	h7	0.20	1	800
橋脚	h8	0.20	1	400
橋脚	h9	0.20	1	400
橋脚	h10	0.20	1	400
橋脚	h11	0.20	1	400
橋脚	h12	0.30	1	1300
橋脚	h13	0.20	1	600
橋脚	h14	0.25	1	1200
橋脚	h15	0.20	1	400
橋脚	h16	0.20	1	700
橋脚	h17	0.20	1	400
橋脚	h18	0.20	1	300
橋脚	h19	0.20	1	400
橋脚	h20	0.20	1	700
橋脚	h21	0.20	1	600
橋脚	h22	0.20	1	400
橋脚	h23	0.20	1	400
橋脚	h24	0.20	1	400
橋台	h25	0.20	1	650
橋台	h26	0.35	1	800
橋台	h27	0.20	1	1000
橋台	h28	0.20	1	1000
合 計				18670

断面修復工A 数量表

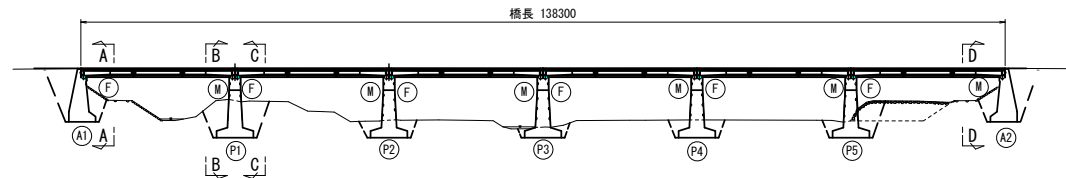
部材	No.	補修範囲 (mm)	補修深さ (mm)	箇所	V (m3)
橋台	T1	350 x 250	70	1	0.0062
橋脚	T2	200 x 150	70	1	0.0021
橋脚	T3	150 x 150	70	1	0.0016
橋脚	T4	100 x 130	70	1	0.0009
合 計					0.0108

P1橋脚



損 傷 の 凡 例	
損傷の種類	表 示
ひびわれ 0.2mm超過～1.0mm未満	h
鉄筋露出	T

配置図 S=1:400



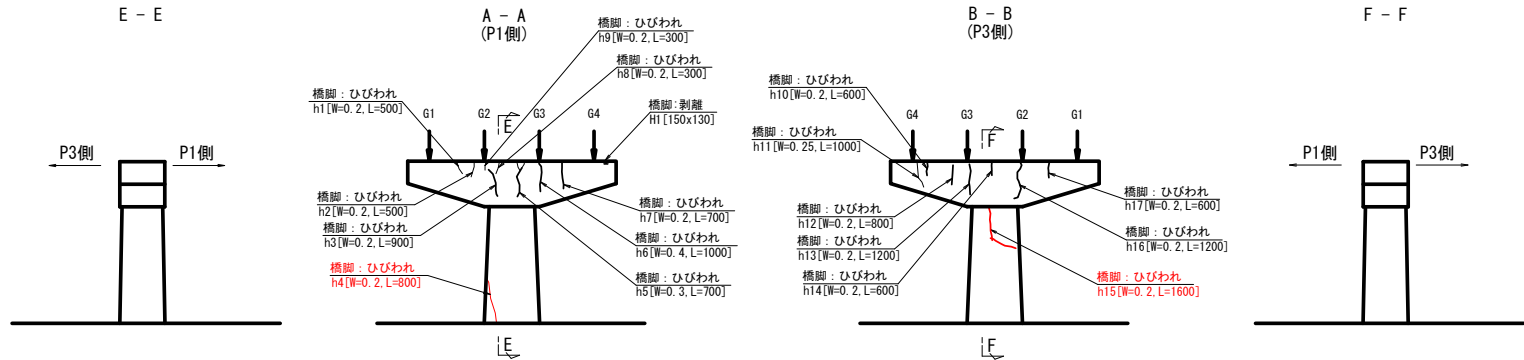
実施

- 注記)
- 断面修復、ひびわれ補修の範囲は、「既往点検データ」「現地踏査」等に基づき決めているが、工事に際しては、劣化範囲の進展の可能性があるため劣化状況を確認すること。
 - 本図に示した箇所以外で同様の損傷が確認された場合や、欠損部にて鉄筋露出が見られる際には、監督職員と協議の上同様の対策を実施すること。
 - 脆弱部ははつり落とすこと。
 - カッター工、はつり工の施工に際しては、既設鉄筋等を傷つけないよう注意すること。
 - ひびわれ注入工の数量は想定深さで算出している。工事では、実際の使用量等で管理し、監督職員と協議の上、変更すること。
 - 補修深さは現地確認の上、必要に応じて変更すること。

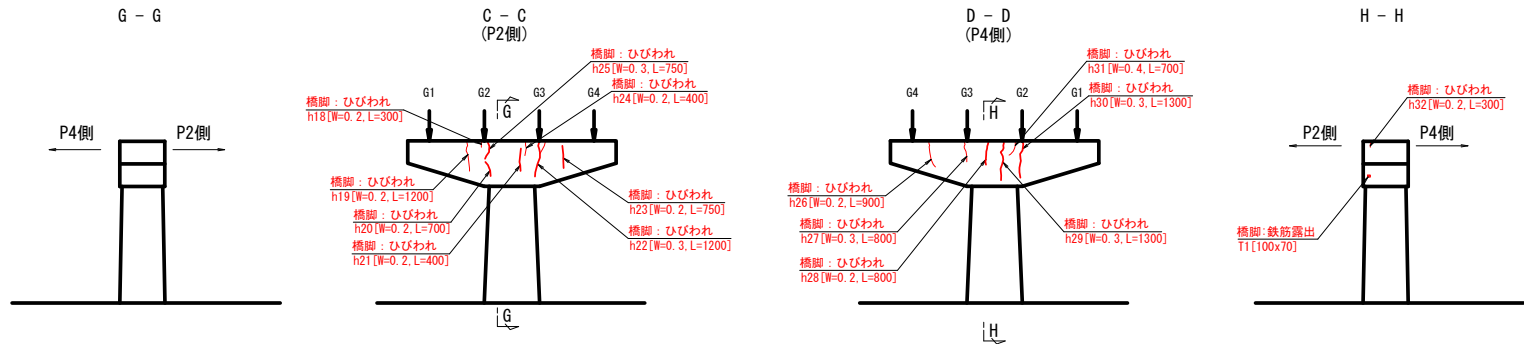
工 事 名	市道1-20号線八幡橋側道補修・補修詳細設計業務委託		
図 面 名	八幡橋 下部工補修工(その1)		
作成年月日	令和7年3月		
縮 尺	図 示	図面番号	2-7
会 社 名			
事務所名	山梨県笛吹市		

八幡橋 下部工補修工(その2) S=1:100

P2橋脚



P3橋脚



損傷の凡例	
損傷の種類	表示
ひびわれ 0.2mm超過～1.0mm未満	h
鉄筋露出	T
剥離	H

ひびわれ注入工数量表

(0.2超過～0.5mm未満)

部材	No.	幅(mm)	本数	延長(mm)
橋脚	h1	0.20	1	500
橋脚	h2	0.20	1	500
橋脚	h3	0.20	1	900
橋脚	h4	0.20	1	800
橋脚	h5	0.30	1	700
橋脚	h6	0.40	1	1000
橋脚	h7	0.20	1	700
橋脚	h8	0.20	1	300
橋脚	h9	0.20	1	300
橋脚	h10	0.20	1	600
橋脚	h11	0.25	1	1000
橋脚	h12	0.20	1	800
橋脚	h13	0.20	1	1200
橋脚	h14	0.20	1	600
橋脚	h15	0.20	1	1600
橋脚	h16	0.20	1	1200
橋脚	h17	0.20	1	600
橋脚	h18	0.20	1	300
橋脚	h19	0.20	1	1200
橋脚	h20	0.20	1	700
橋脚	h21	0.20	1	400
橋脚	h22	0.30	1	1200
橋脚	h23	0.20	1	750
橋脚	h24	0.20	1	400
橋脚	h25	0.30	1	750
橋脚	h26	0.20	1	900
橋脚	h27	0.30	1	800
橋脚	h28	0.20	1	800
橋脚	h29	0.30	1	1300
橋脚	h30	0.30	1	1300
橋脚	h31	0.40	1	700
橋脚	h32	0.20	1	300
合 計				25100

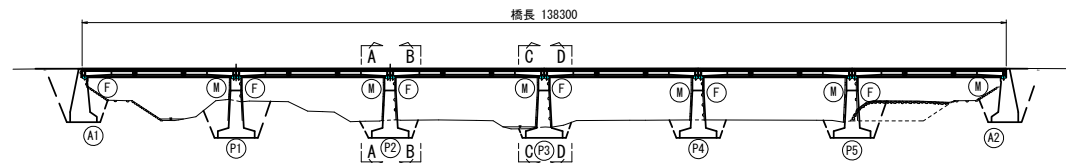
断面修復工A 数量表

部材	No.	補修範囲(mm)	補修深さ(mm)	箇所	V(m3)
橋脚	T1	100 x 70	70	1	0.0005
合 計					0.0005

断面修復工B 数量表

部材	No.	補修範囲(mm)	補修深さ(mm)	箇所	V(m3)
橋脚	H1	150 x 130	30	1	0.0006
合 計					0.0006

配置図 S=1:400



実施

注記)

- 断面修復、ひびわれ補修の範囲は、「既往点検データ」「現地踏査」等に基づき決めているが、工事には、劣化範囲の進展の可能性があるので劣化状況を確認すること。
- 本図に示した箇所以外で同様の損傷が確認された場合や、欠損部にて鉄筋露出が見られる際には、監督職員と協議の上同様の対策を実施すること。
- 脆弱部ははつり落とすこと。
- カッター工、はつり工の施工に際しては、既設鉄筋等を傷つけないよう注意すること。
- ひびわれ注入工の数量は想定深さで算出している。工事では、実際の使用量等で管理し、監督職員と協議の上、変更すること。
- 補修深さは現地確認の上、必要に応じて変更すること。

工 事 名	市道1-20号線八幡橋制震補強・補修詳細設計業務委託		
図 面 名	八幡橋 下部工補修工(その2)		
作成年月日	令和7年3月		
縮 尺	図 示	図面番号	2-8
会 社 名			
事務所名	山梨県笛吹市		

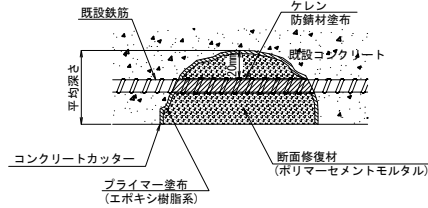
八幡橋 下部工補修工(その4) S=1:10

断面修復工・ひびわれ補修工：各部詳細図

断面修復工A詳細図

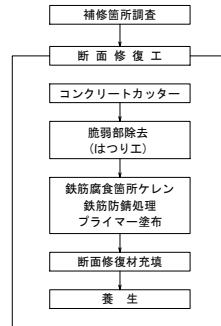
鉄筋露出 (T)

＜断面修復平均深さ = 70mm＞



- ※ コンクリートのはつりは、損傷部を囲む長方形の範囲に対して深さ10mm程度コンクリートカッターにより切込みを入れる。
- ※ 脆弱部および鋼材の裏側までコンクリートをはつり取る。
- ※ 腐食した鋼材の錆を完全に除去する。

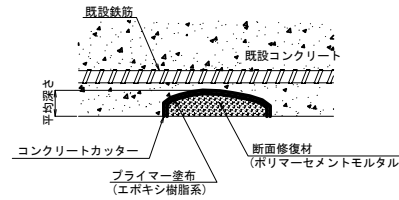
施工手順



断面修復工B詳細図

剥離 (H)

＜断面修復平均深さ = 30mm＞



- ※ コンクリートのはつりは、損傷部を囲む長方形の範囲に対して深さ10mm程度コンクリートカッターにより切込みを入れる。

施工手順



断面修復工A 数量表(鉄筋ケレン・防錆処理含む) (1橋当り)

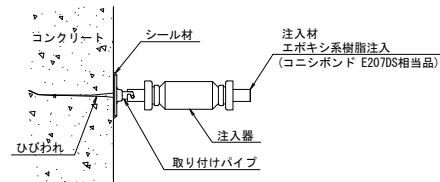
名称	規格	単位	数量	摘要
コンクリート処理	無筋	m3	0.0113	般運搬含む 参考重量 0.02599t
断面修復材	ポリマーセメントモルタル	m3	0.0113	

断面修復工B 数量表(鉄筋ケレン・防錆処理含まない) (1橋当り)

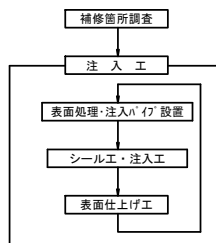
名称	規格	単位	数量	摘要
コンクリート処理	無筋	m3	0.0006	般運搬含む 参考重量 0.00138t
断面修復材	ポリマーセメントモルタル	m3	0.0006	

ひびわれ注入工詳細図

(自動式低圧注入工法)



施工手順

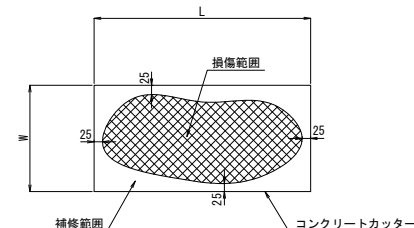


ひびわれ注入工 数量表

(1橋当り)

工法	名称	単位	数量	備考
自動式低圧樹脂注入工法	施工延長	m	59.720	
	注入材	kg	9.90	ポリエステル系
	シール材	kg	12.52	エポキシ系樹脂
	注入器具	個	200	0.3m当り1本

断面修復範囲図



※損傷部より25mm程度の余裕を確保し、5cmラウンドの長方形の範囲に対して断面修復を行う。

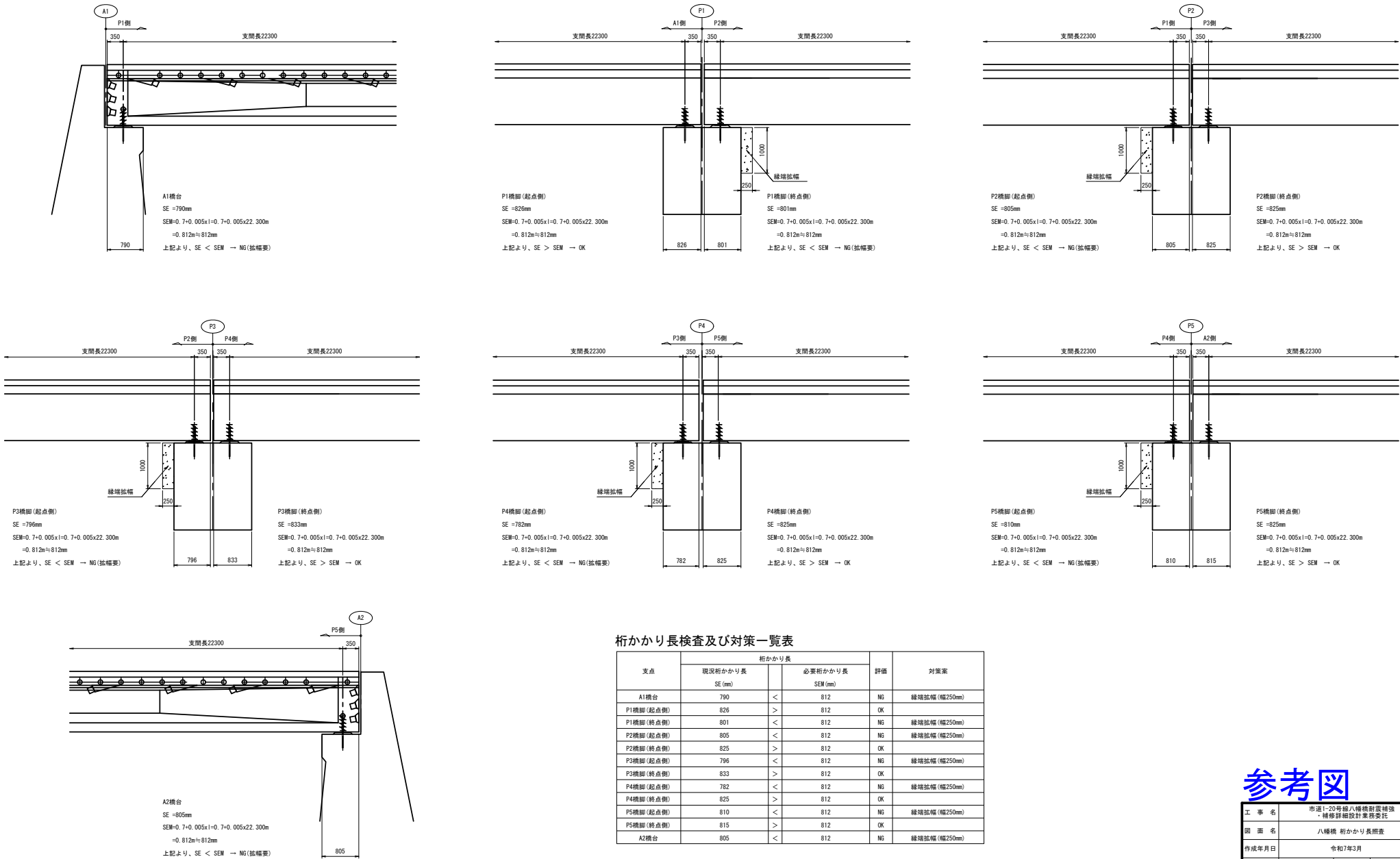
実施

- 注記)
- 断面修復、ひびわれ補修の範囲は、「既往点検データ」「現地踏査」等に基づき決めているが、工事に際しては、劣化範囲の進展の可能性があるため劣化状況を確認すること。
 - 本図に示した箇所以外で同様の損傷が確認された場合や、欠損部にて鉄筋露出が見られる際には、監督職員と協議の上同様の対策を実施すること。
 - 脆弱部ははつり落とすこと。
 - カッター工、はつり工の施工に際しては、既存鉄筋等を傷つけないよう注意すること。
 - ひびわれ注入工の数量は想定深さで算出している。工事では、実際の使用量等で管理し、監督職員と協議の上、変更すること。
 - 補修深さは現地確認の上、必要に応じて変更すること。

工事名	市道1-20号線八幡橋側道補強・補修詳細設計業務委託		
図面名	八幡橋 下部工補修工(その4)		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	図示	図面番号	2-10
会社名			
事務所名	山梨県笛吹市		

八幡橋 桁かかり長照査 S=1:40

側面図



桁かかり長検査及び対策一覧表

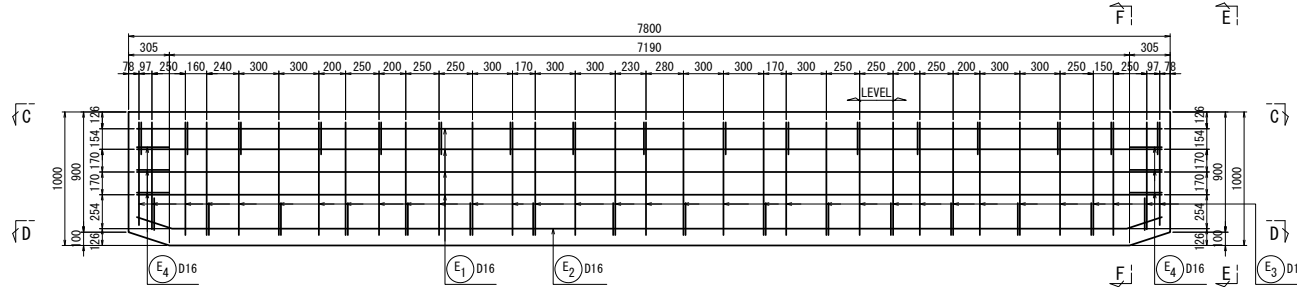
支点	桁かかり長		評価	対策案
	現況桁かかり長 SE (mm)	必要桁かかり長 SEM (mm)		
A1橋台	790	< 812	NG	縁端拡幅 (幅250mm)
P1橋脚 (起点側)	826	> 812	OK	
P1橋脚 (終点側)	801	< 812	NG	縁端拡幅 (幅250mm)
P2橋脚 (起点側)	805	< 812	NG	縁端拡幅 (幅250mm)
P2橋脚 (終点側)	825	> 812	OK	
P3橋脚 (起点側)	796	< 812	NG	縁端拡幅 (幅250mm)
P3橋脚 (終点側)	833	> 812	OK	
P4橋脚 (起点側)	782	< 812	NG	縁端拡幅 (幅250mm)
P4橋脚 (終点側)	825	> 812	OK	
P5橋脚 (起点側)	810	< 812	NG	縁端拡幅 (幅250mm)
P5橋脚 (終点側)	815	> 812	OK	
A2橋台	805	< 812	NG	縁端拡幅 (幅250mm)

参考図

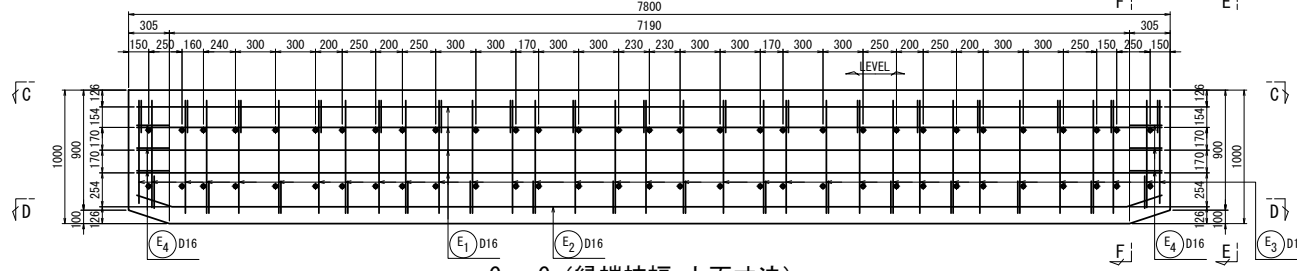
工事名	市道1-20号線八幡橋側道補強・補修詳細設計業務委託		
図面名	八幡橋 桁かかり長照査		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	図示	図面番号	3-1
会社名			
事務所名	山梨県笛吹市		

八幡橋 P3橋脚(起点側) 縁端拡幅詳細図 S=1:20

A - A (縁端拡幅 前面寸法)



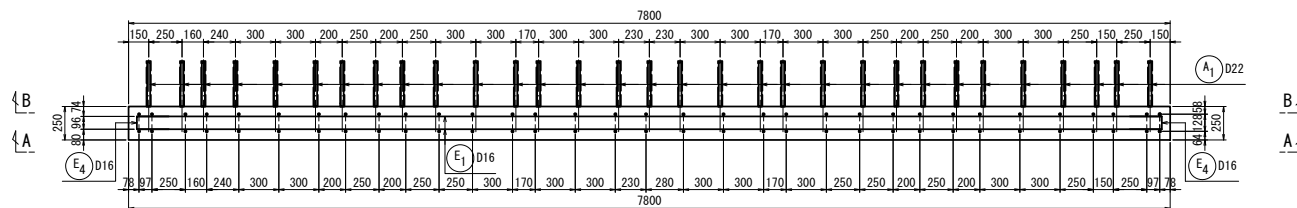
B - B (縁端拡幅 背面寸法)



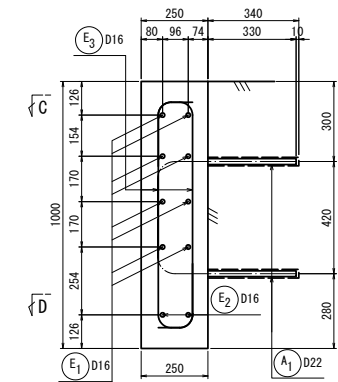
C - C (縁端拡幅 上面寸法)



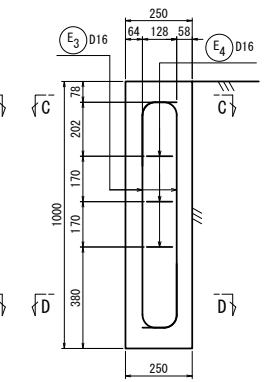
D - D (縁端拡幅 アンカー筋配置面寸法)



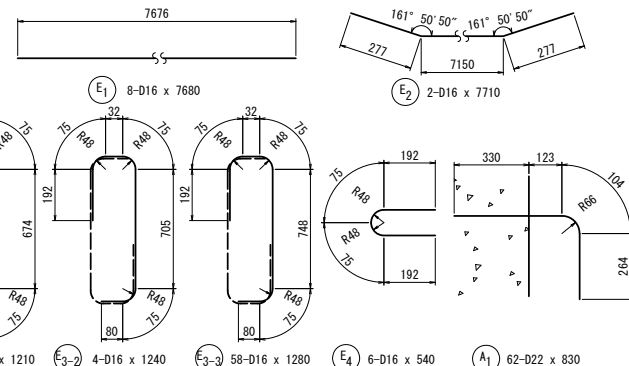
E - E S=1:10



F - F S=1:10



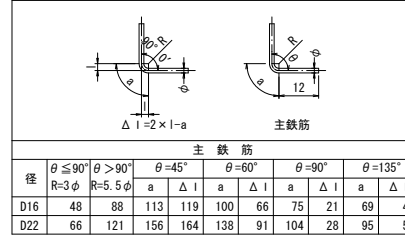
鉄筋加工図 S=1:10



鉄筋表

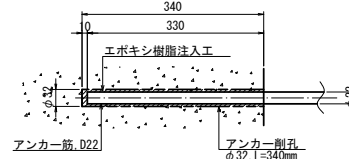
記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
A1	D22	830	62	3.04	2.523	156	
E1	D16	7680	8	1.56	11.981	96	
E2	D16	7710	2	1.56	12.028	24	
E3-1	D16	1210	4	1.56	1.888	8	
E3-2	D16	1240	4	1.56	1.934	8	
E3-3	D16	1280	58	1.56	1.997	116	
E4	D16	540	6	1.56	0.842	5	
総合計 (SD345)						413 kg	
D16						257 kg	
D22						156 kg	
合計						413 kg	

鉄筋曲げ加工表



注) 上記に当てはまらない角度は各々の角度で減長計算している。

縁端拡幅アンカー詳細図 S=1:5



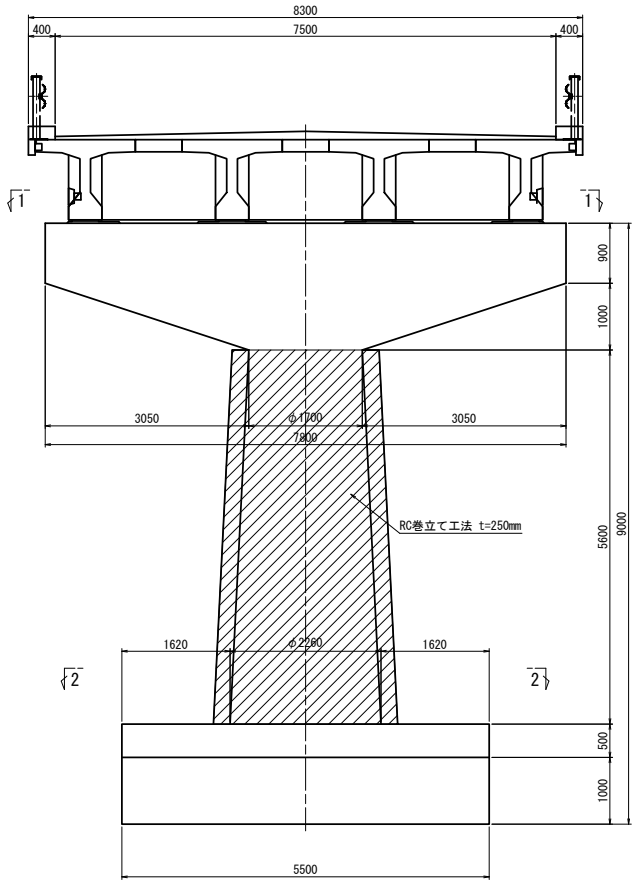
- 注記)
- 現場施工時に必ず計測を行い、製作・施工を行うこと。
 - 現地測定のため、寸法を決定すること。
 - コンクリートの削孔にあたっては、RCレーダー等による鉄筋探索を十分に行い、既設鉄筋を避けること。
 - 既設コンクリート面はチッピング処理を行うこと。
 - コンクリート設計基準強度
 - 既設上部工: $\sigma_{ck}=21\text{N/mm}^2$
 - 既設下部工: $\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$
 - 新設縁端拡幅: $\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$

実施

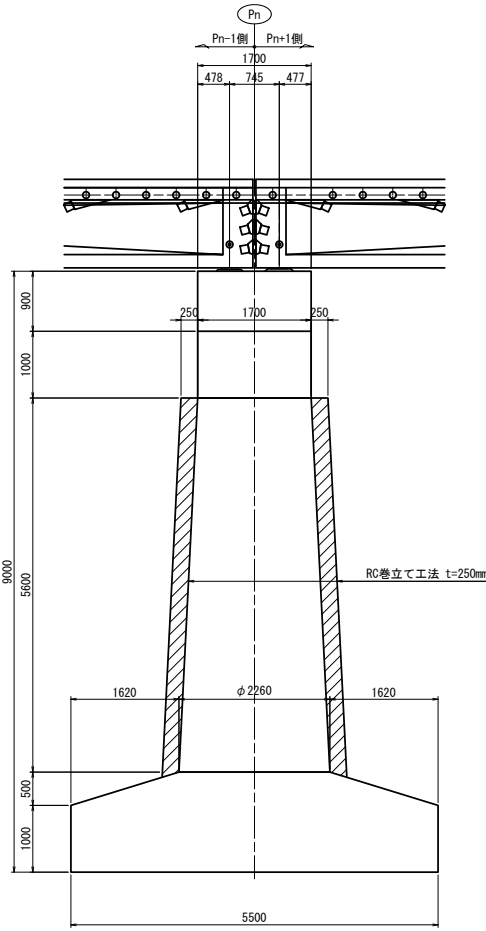
工事名	市道1-20号線八幡橋側道橋補強・補修詳細設計業務委託
図面名	八幡橋 P3橋脚(起点側) 縁端拡幅詳細図
作成年月日	令和7年3月
縮尺	図示 図面番号 3-5
会社名	
事務所名	山梨県星次市

八幡橋 P1～P5橋脚 補強構造一般図 S=1:40

正面図

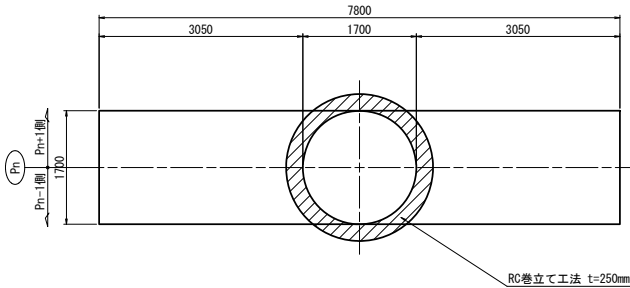


側面図

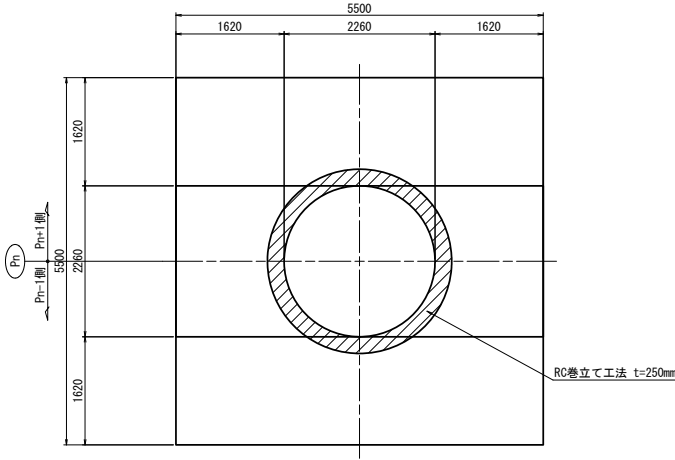


平面図

1 - 1



2 - 2



使用材料

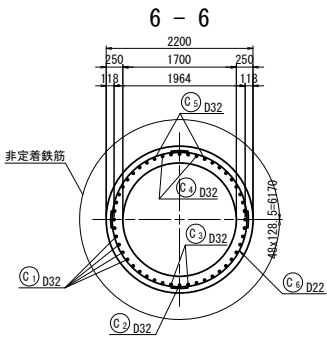
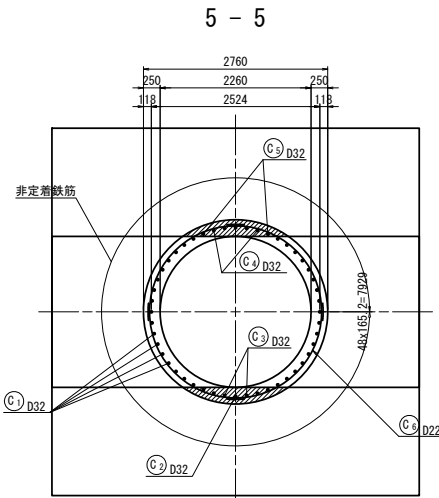
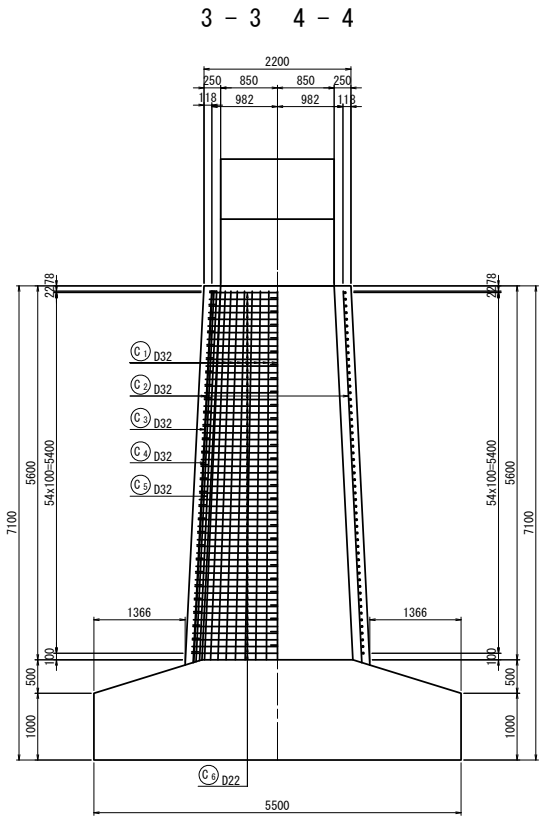
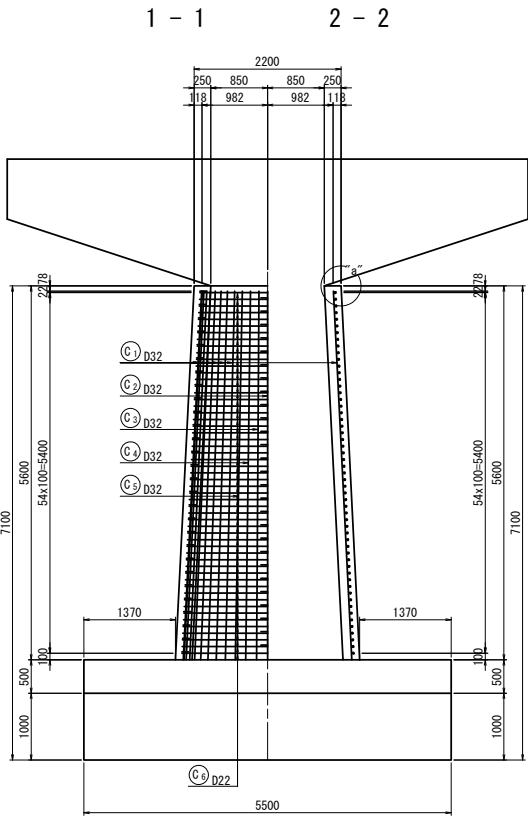
種 別	仕 様
コンクリート	24 N/mm ²
鉄 筋	S D 3 4 5

はRC巻立て補強部を示す。

実施

工 事 名	市道1-30号線八幡橋側道補強・補修詳細設計業務委託
図 面 名	八幡橋 P1～P5橋脚 補強構造一般図
作成年月日	令和7年3月
縮 尺	図 示
図面番号	3-9
食 社 名	
事務所名	山梨県笛吹市

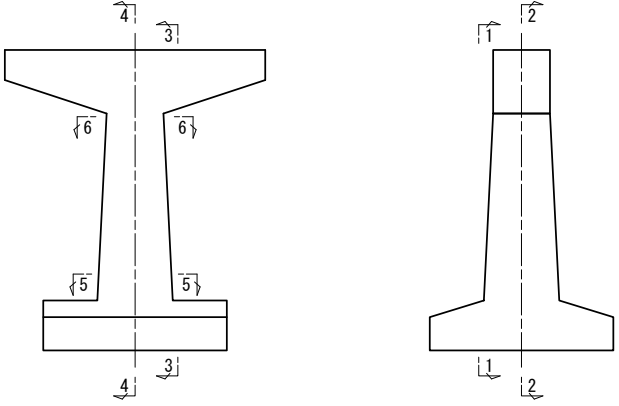
八幡橋 P1～P5橋脚 補強配筋図(その1) S=1:40



“a”部詳細図 1:10



位置図 1:80

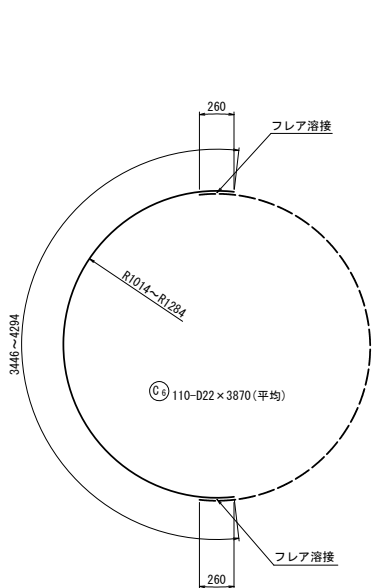


- 注記)
1. 巻立て部のコンクリートの設計基準強度は24N/mm²とする。
 2. 使用鉄筋はSD345とする。
 3. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認する事。
 4. 新旧コンクリート境界面は全て表面処理を行う事。
 5. コンクリートの打設時は、既設コンクリート面を濡潤状態にする事。
 6. アンカー削孔箇所は鉄筋探査を行い既設鉄筋を損傷させない事。
 7. 組立て用アンカー鉄筋は1本/m²配置する事。
 8. フレア溶接は上下に重ならないよう交互にずらして配筋すること。
 9. 組立て用アンカー鉄筋は、主鉄筋の位置を固定するために主鉄筋に沿って配置すること。

実施

工 事 名	市道1-20号線八幡橋側道補強・補修詳細設計業務委託		
図 面 名	八幡橋 P1～P5橋脚 補強配筋図(その1)		
作成年月日	令和7年3月		
縮 尺	図 示	図面番号	3-10
食 社 名			
事務所名	山梨県笛吹市		

八幡橋 P1～P5橋脚 補強配筋図(その2) S=1:20

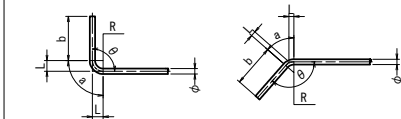


鉄筋質量表

種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	一本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C1	D32	5530	34	6.23	34.5	1173	—
C2	D32	5570	2	6.23	34.7	69	—
C3	D32	5570	4	6.23	34.7	139	—
C4	D32	5560	4	6.23	34.6	138	—
C5	D32	5540	4	6.23	34.5	138	—
C6	D22	3870(平均)	110	3.04	11.8	1298	Ⓒ(平均)
2955 kg							
1橋脚当り鉄筋質量合計							
D22 (SD345) 1298 kg							
D32 (SD345) 1657 kg							
1橋脚当り総質量 2955 kg							
1橋脚当りフレア溶接(D22用) 110 箇所							
5橋脚総質量 14775 kg							
5橋脚フレア溶接(D22用) 550 箇所							

鉄筋曲げ加工表

径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0 ϕ		$\theta > 90^\circ$ R=5.5 ϕ		$\theta = 90^\circ$		$\theta = 135^\circ$	
	a	b	a	b	減長	a	b	減長
D13	39	71.5	61	156	17	56	156	3
D16	48	88	75	192	21	69	192	4
D19	57	104.5	89	228	25	82	228	5
D22	66	121	104	264	28	95	264	5
D25	75	137.5	118	300	32	108	300	6
D29	87	159.5	137	348	37	125	348	7
D32	96	176	151	384	41	138	384	8



径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0 ϕ		$\theta > 90^\circ$ R=5.5 ϕ		$\theta = 90^\circ$		$\theta = 135^\circ$	
	a	b	a	b	減長	a	b	減長
D13	39	71.5	61	156	17	56	156	3
D16	48	88	75	192	21	69	192	4
D19	57	104.5	89	228	25	82	228	5
D22	66	121	104	264	28	95	264	5
D25	75	137.5	118	300	32	108	300	6
D29	87	159.5	137	348	37	125	348	7
D32	96	176	151	384	41	138	384	8

1橋脚当り鉄筋質量合計								
D22 (SD345) 1298 kg								
D32 (SD345) 1657 kg								
1橋脚当り総質量 2955 kg								
1橋脚当りフレア溶接(D22用) 110 箇所								
5橋脚総質量 14775 kg								
5橋脚フレア溶接(D22用) 550 箇所								

1橋脚当り鉄筋質量合計								
D22 (SD345) 1298 kg								
D32 (SD345) 1657 kg								
1橋脚当り総質量 2955 kg								
1橋脚当りフレア溶接(D22用) 110 箇所								
5橋脚総質量 14775 kg								
5橋脚フレア溶接(D22用) 550 箇所								

1橋脚当り鉄筋質量合計								
D22 (SD345) 1298 kg								
D32 (SD345) 1657 kg								
1橋脚当り総質量 2955 kg								
1橋脚当りフレア溶接(D22用) 110 箇所								
5橋脚総質量 14775 kg								
5橋脚フレア溶接(D22用) 550 箇所								

1橋脚当り鉄筋質量合計								
D22 (SD345) 1298 kg								
D32 (SD345) 1657 kg								
1橋脚当り総質量 2955 kg								
1橋脚当りフレア溶接(D22用) 110 箇所								
5橋脚総質量 14775 kg								
5橋脚フレア溶接(D22用) 550 箇所								

1橋脚当り鉄筋質量合計								
D22 (SD345) 1298 kg								
D32 (SD345) 1657 kg								
1橋脚当り総質量 2955 kg								
1橋脚当りフレア溶接(D22用) 110 箇所								
5橋脚総質量 14775 kg								
5橋脚フレア溶接(D22用) 550 箇所								

1橋脚当り鉄筋質量合計								
D22 (SD345) 1298 kg								
D32 (SD345) 1657 kg								
1橋脚当り総質量 2955 kg								
1橋脚当りフレア溶接(D22用) 110 箇所								
5橋脚総質量 14775 kg								
5橋脚フレア溶接(D22用) 550 箇所								

1橋脚当り鉄筋質量合計								
D22 (SD345) 1298 kg								
D32 (SD345) 1657 kg								
1橋脚当り総質量 2955 kg								
1橋脚当りフレア溶接(D22用) 110 箇所								
5橋脚総質量 14775 kg								
5橋脚フレア溶接(D22用) 550 箇所								

1橋脚当り鉄筋質量合計								
D22 (SD345) 1298 kg								
D32 (SD345) 1657 kg								
1橋脚当り総質量 2955 kg								
1橋脚当りフレア溶接(D22用) 110 箇所								
5橋脚総質量 14775 kg								
5橋脚フレア溶接(D22用) 550 箇所								

1橋脚当り鉄筋質量合計								
D22 (SD345) 1298 kg								
D32 (SD345) 1657 kg								
1橋脚当り総質量 2955 kg								
1橋脚当りフレア溶接(D22用) 110 箇所								
5橋脚総質量 14775 kg								
5橋脚フレア溶接(D22用) 550 箇所								

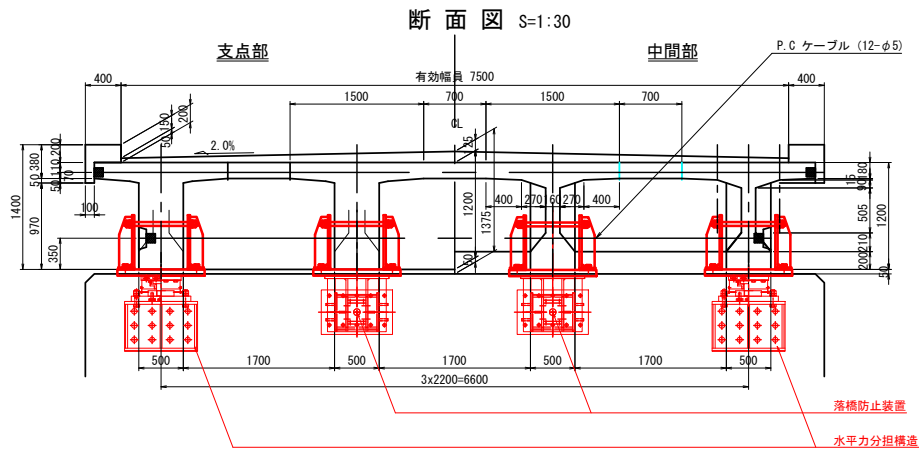
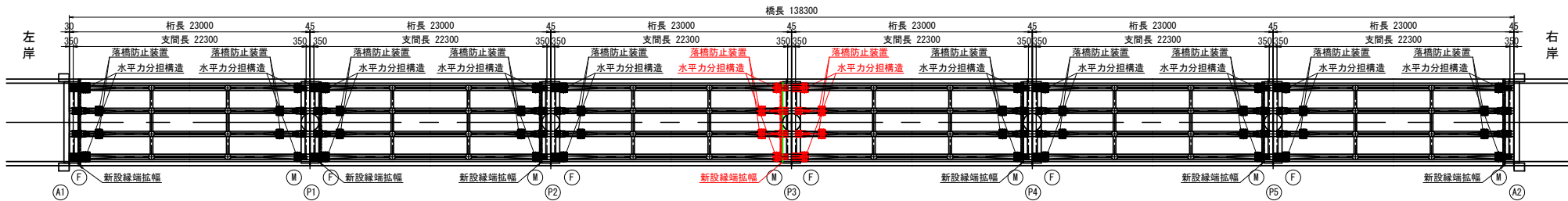
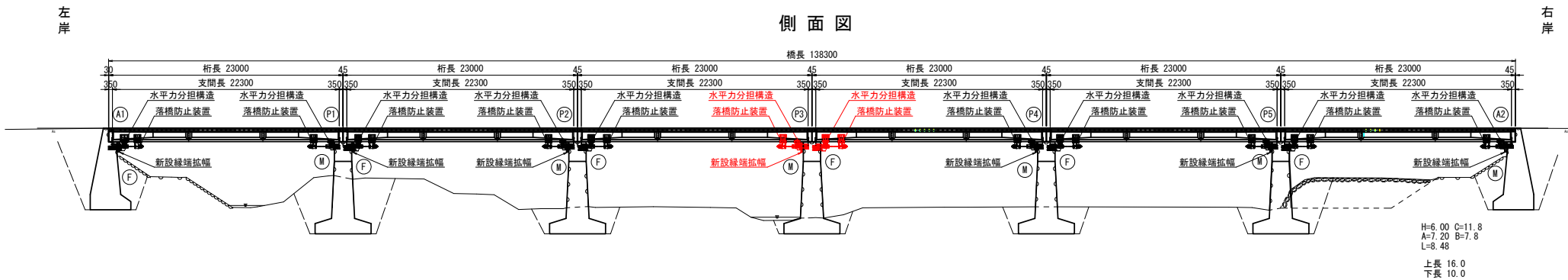
1橋脚当り鉄筋質量合計								
D22 (SD345) 1298 kg								
D32 (SD345) 1657 kg								
1橋脚当り総質量 2955 kg								
1橋脚当りフレア溶接(D22用) 110 箇所								
5橋脚総質量 14775 kg								
5橋脚フレア溶接(D22用) 550 箇所								

1橋脚当り鉄筋質量合計								
D22 (SD345) 1298 kg								
D32 (SD345) 1657 kg								
1橋脚当り総質量 2955 kg								
1橋脚当りフレア溶接(D22用) 110 箇所								
5橋脚総質量 14775 kg								
5橋脚フレア溶接(D22用) 550 箇所								

1橋脚当り鉄筋質量合計								
D22 (SD345) 1298 kg								
D32 (SD345) 1657 kg								
1橋脚当り総質量 2955 kg								
1橋脚当りフレア溶接(D22用) 110 箇所								
5橋脚総質量 14775 kg								
5橋脚フレア溶接(D22用) 550 箇所								

6. アンカー削孔箇所は鉄筋探査を行い既設鉄筋を損傷
7. 鉛線で固定し、鉄筋は1本1本設置する

八幡橋 耐震補強一般図 S=1:200



耐震補強対策一覧表

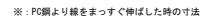
対象支点	耐震補強対策工
A1橋台	落橋防止構造、水平力分担構造、緑端拡幅構造
P1橋脚(起点側)	落橋防止構造、水平力分担構造
P1橋脚(終点側)	落橋防止構造、水平力分担構造、緑端拡幅構造
P2橋脚(起点側)	落橋防止構造、水平力分担構造
P2橋脚(終点側)	落橋防止構造、水平力分担構造
P3橋脚(起点側)	落橋防止構造、水平力分担構造、緑端拡幅構造
P3橋脚(終点側)	落橋防止構造、水平力分担構造
P4橋脚(起点側)	落橋防止構造、水平力分担構造、緑端拡幅構造
P4橋脚(終点側)	落橋防止構造、水平力分担構造
P5橋脚(起点側)	落橋防止構造、水平力分担構造、緑端拡幅構造
P5橋脚(終点側)	落橋防止構造、水平力分担構造
A2橋台	落橋防止構造、水平力分担構造、緑端拡幅構造

実施

工事名	市道1-20号線八幡橋耐震補強 ・補修詳細設計業務委託
図面名	八幡橋 耐震補強一般図
作成年月日	令和7年3月
縮尺	図示 図面番号 4-1
会社名	
事務所名	山梨県宮内市

S=1:10

S = 1:10



S = 1:10

No	名 称	寸 法	材 質	単 位	数 量 P3 (起)	備 考
1	緩衝バックピン	φ300x25	CR	枚	2	
2	セーフティストッパー	φ300x140	SS400、ネオプラス、CR	個	1	
3	コイルスプリング	φ109x276	SM50C-B	本	1	P/Eコーティング
4	防錆支柱板	φ300x34	SS400、ネオプラス	枚	2	
5	防錆座金	φ200x25	SS400、ネオプラス	枚	2	
6	防錆キャップ (A)	φ210x220	CRまたはTPE	個	1	
7	防錆キャップ (B)	φ365x480	CRまたはTPE	個	1	取付プレート付
8	ガイドブロック	150x200x200	EPDM	組	2	内径用ガイド・ナット と併用
9	P/C鎖より線・ナット	FW130 L=2040	SWP R	組	1	P/Eコーティング

※ 取付プレートにより固定する

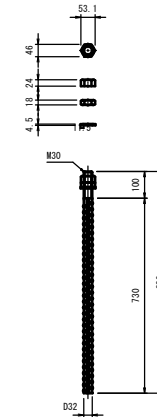
实施

工 事 名	市道1-20号線八橋橋脚耐震補強 ・補修詳細設計業務受託		
図 面 名	八橋橋 P3挑頭(起点部) 落橋防止構造詳細図(その1)		
作成年月日	令和7年3月		
縮 尺	図 示	図面番号	4-22
会 社 名			
事務所名	山梨製菓牧市		

S=1:10

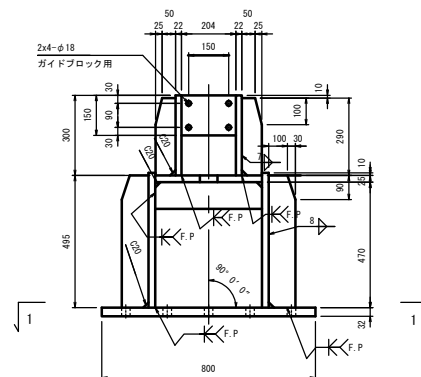
S = 1:10

② アンカーボルト (SD345)

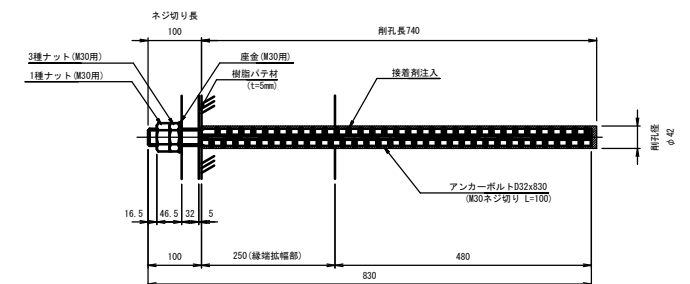


※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

3 - 3



S=1:5



特記事項

1. 施工着手に先立ち、現地寸法等を確認し、製作時に鋼材の加工に反映すること。
2. 鋼材は全て重めめっき (JIS H 8641, HDZ777)+イオニス・スプレー (防錆表面処理剤) とする。
3. ボルト類は重めめっき (JIS H 8641, HDZ749) とする。
4. グループ溶接は完全溶け込みとする。開先形状は指定しない。
5. 取付部下の処理を行うとともに、エポキシ樹脂注入前に接着面を清掃すること。

工 事 名	市道1-20号線八幡橋耐震補強 + 補修詳細設計業務委託		
図 面 名	八幡橋 P3橋脚(起点部) 落橋防止構造詳細図(その2)		
作成年月日	令和7年3月		
縮 尺	図 示	図面番号	4-23
会 社 名			
事務所名	山梨県富牧市		

ブラケット材料（一基当り）

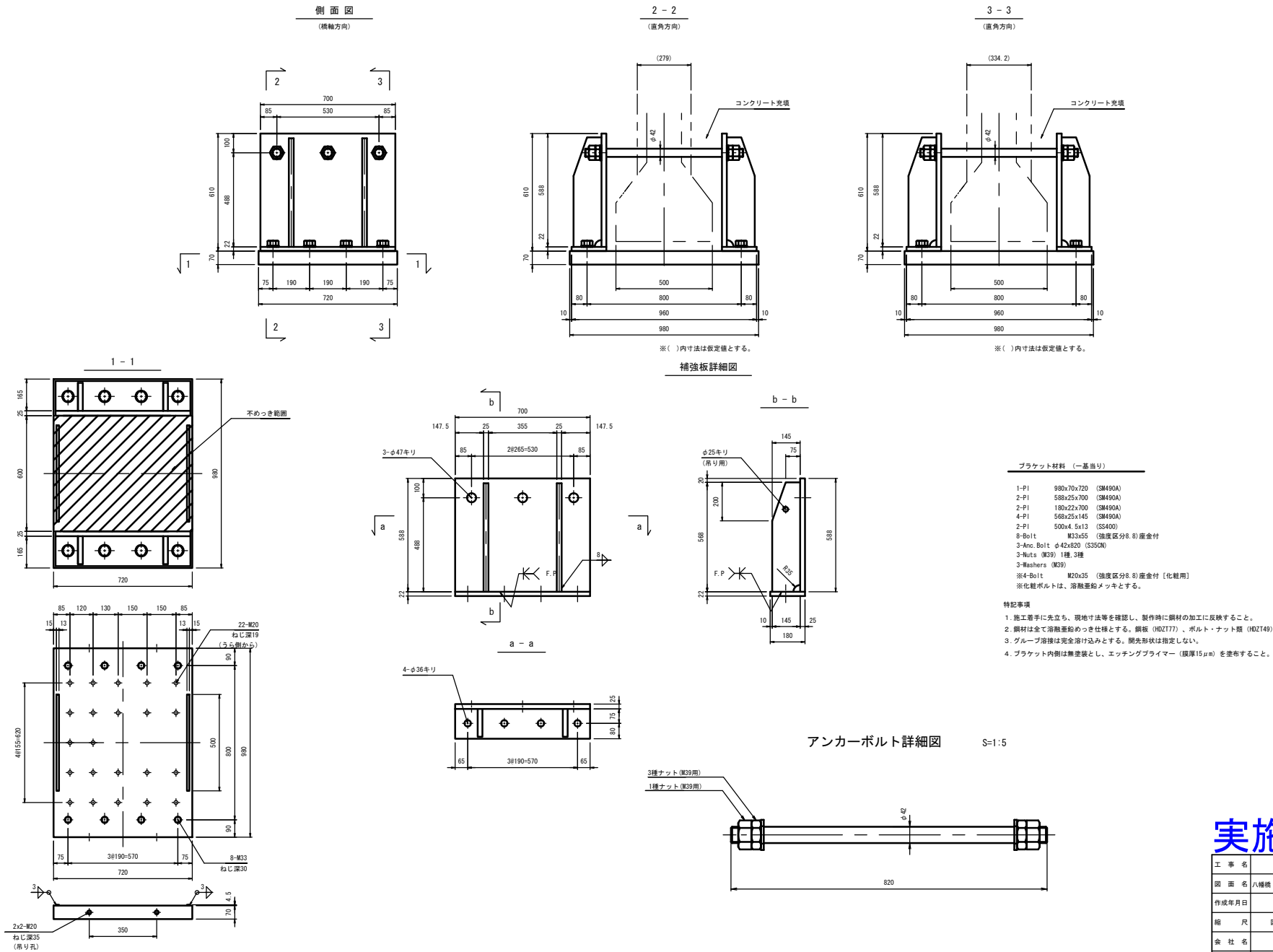
1-P1	800x32x590	(SM490A)
2-P1	505x22x430	(SM490A)
1-P1	400x25x450	(SM490A)
2-P1	450x22x100	(SM490A)
4-P1	100x22x495	(SM490A)
2-P1	300x22x350	(SM490A)
2-P1	204x32x150	(SM490A)
2-P1	75x22x290	(SM490A)
10-Anc. Bolt	D32x830	(SD345)
10-Nuts (M30)	1種, 3種	
10-Washers (M30)		

八幡橋 P3橋脚(起点側) 落橋防止構造詳細図(その3)

S=1:10

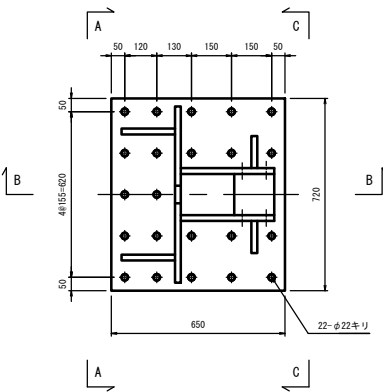
桁取付ブラケット詳細図

S = 1:10



上部エブラケット詳細図

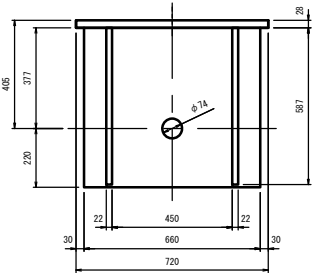
S = 1:10



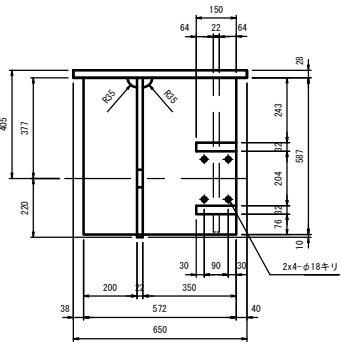
ブラケット材料 (一対当り)

1-PI	720x28x650	(SM490A)
1-PI	660x22x597	(SM490A)
2-PI	587x22x350	(SM490A)
2-PI	587x22x200	(SM490A)
2-PI	577x22x120	(SM490A)
2-PI	204x32x150	(SM490A)
22-Bolt	M20x 50	(強度区分8.8) 座金付

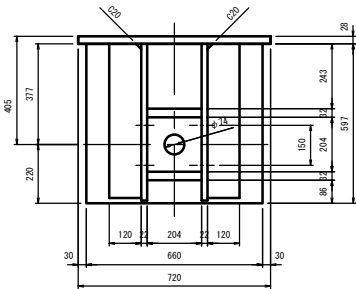
A - A



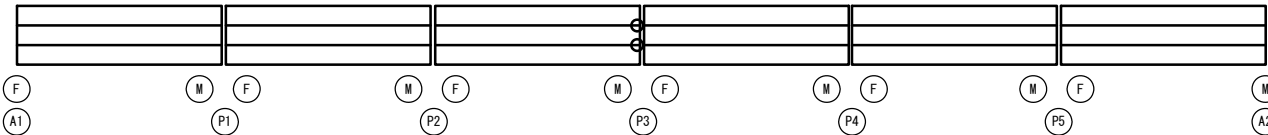
B - B



C - C



配置図



特記事項

- 施工着手に先立ち、現地寸法等を確認し、製作時に鋼材の加工に反映すること。
- 鋼材は全て亜鉛めっき (JIS H 8641, HDZ177)・イオニス・スプレー (防錆表面処理剤) とする。
- ボルト類は亜鉛めっき (JIS H 8641, HDZ149) とする。
- 溶接は全断面溶け込みグループ溶接とする。開先形状は指定しない。

実施

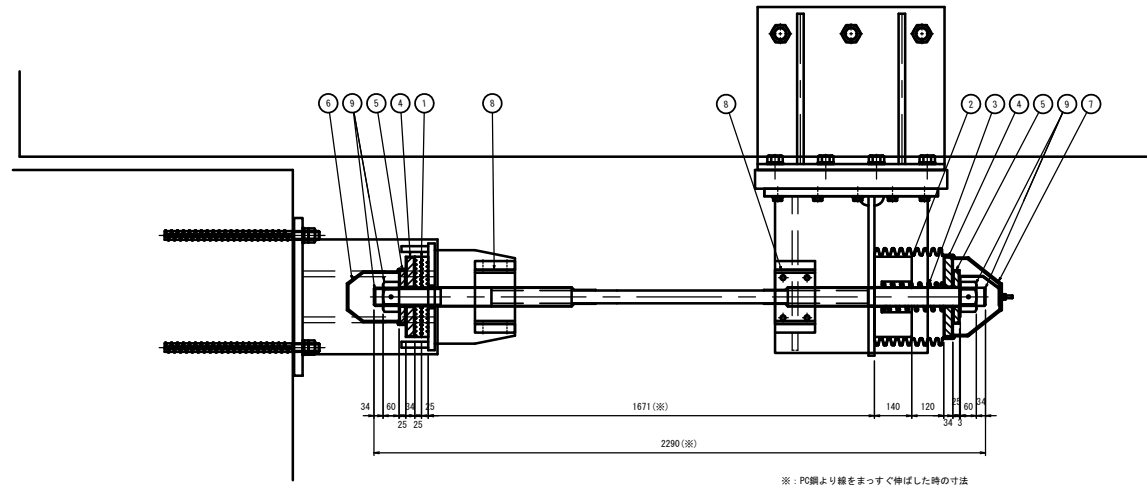
工事名	市道1-10号線八幡橋側道橋補強・補修詳細設計業務委託		
図面名	八幡橋 P3橋脚(起点側) 落橋防止構造詳細図(その4)		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	図示	図面番号	4-25
会社名			
事務所名	山梨県笛吹市		

八幡橋 P3橋脚(終点側) 落橋防止構造詳細図(その1)

S=1:10

取付詳細図

S = 1:10

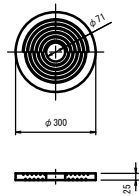


※ PC鋼より線をまっすぐ伸ばした時の寸法

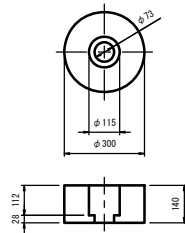
部品図

S = 1:10

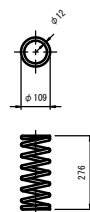
① 緩衝パッキン



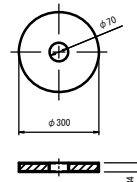
② セーフティストッパー



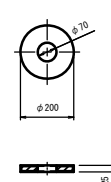
③ コイルスプリング



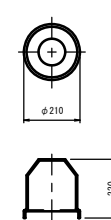
④ 防錆支圧板



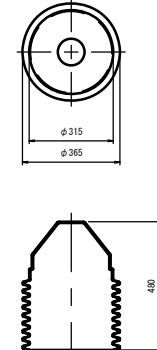
⑤ 防錆座金



⑥ 防錆キャップ(A)

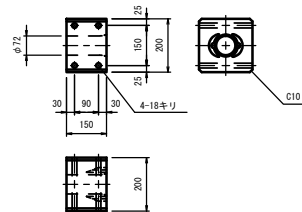


⑦ 防錆キャップ(B)

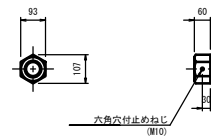
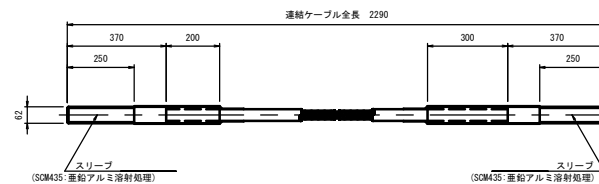


※ 取付プレートにより固定する

⑧ ガイドブロック

4-BN M16×290 強度区分 4.6以上
(ばね座金 16×28×4.0 各1枚付き)

⑨ PC鋼より線・ナット



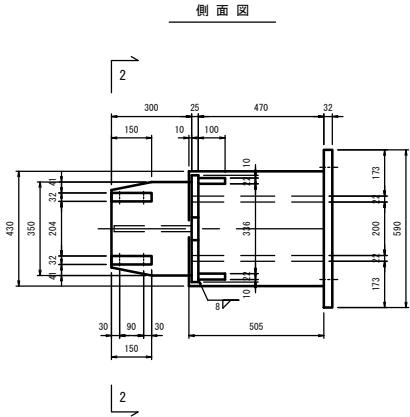
実施

工事名	市道1-30号線八幡橋側電柱法・補修詳細設計業務委託		
図面名	八幡橋 P3橋脚(終点側) 落橋防止構造詳細図(その1)		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	図示	図面番号	4-26
会社名			
事務所名	山梨県笛吹市		

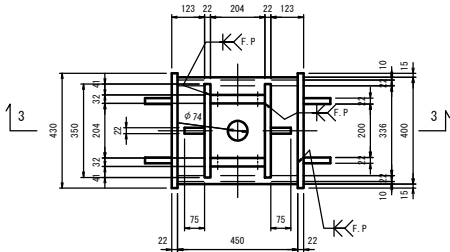
下部エブラケット詳細図

S = 1:10

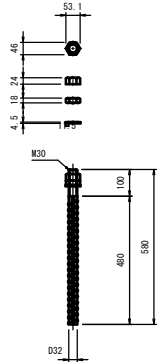
① ブラケット (SM490A)



2 - 2

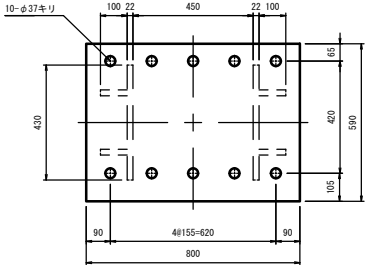


② アンカーボルト (SD345)

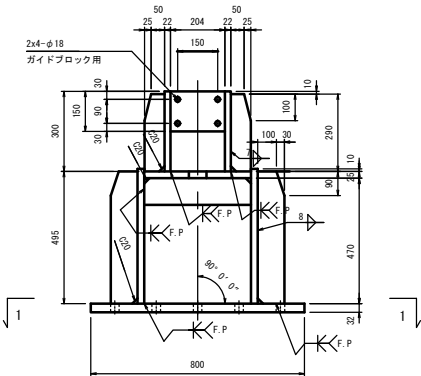


※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

1 - 1

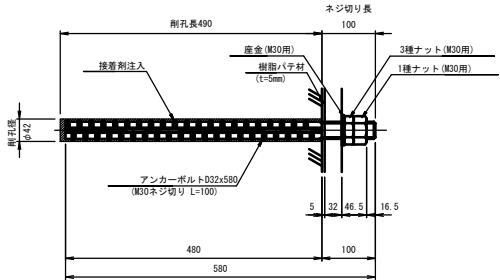


3 - 3



アンカーボルト詳細図

S=1:5



ブラケット材料 (一基当り)

- 1-P1 800x22x590 (SM490A)
2-P1 505x22x430 (SM490A)
1-P1 400x25x450 (SM490A)
2-P1 450x22x100 (SM490A)
4-P1 100x22x495 (SM490A)
2-P1 300x22x350 (SM490A)
2-P1 204x32x150 (SM490A)
2-P1 75x22x290 (SM490A)
10-Anc. Bolt D32x590 (SD345)
10-Nuts (M30) 1種, 3種
10-Washers (M30)

特記事項

- 施工着手に先立ち、現地寸法等を確認し、製作時に鋼材の加工に反映すること。
- 鋼材は全て亜鉛めっき (JIS H 8641, HDZ777)・イオニス・スプレー (防錆表面処理剤) とする。
- ボルト類は亜鉛めっき (JIS H 8641, HDZ749) とする。
- グループ溶接は完全溶け込みとする。開先形状は指定しない。
- 取付け部の下地処理を行うとともに、エポキシ樹脂注入前に接着面を清掃すること。

実施

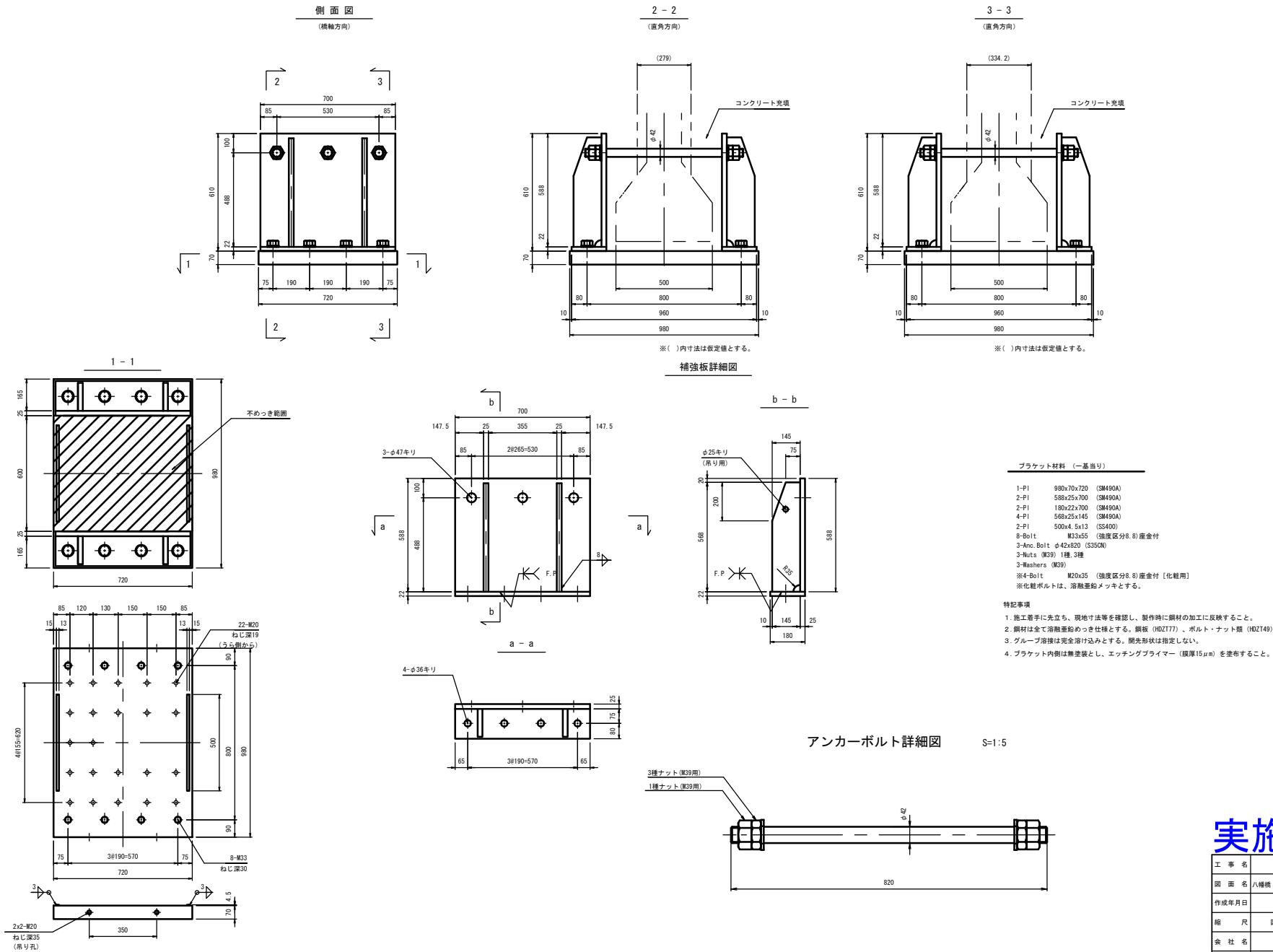
工事名	市道1-10号線八幡橋耐震補強・補修詳細設計業務委託		
図面名	八幡橋 P3橋脚(終点側) 落橋防止構造詳細図(その2)		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	図示	図面番号	4-27
会社名			
事務所名	山梨県笛吹市		

八幡橋 P3橋脚(終点側) 落橋防止構造詳細図(その3)

S=1:10

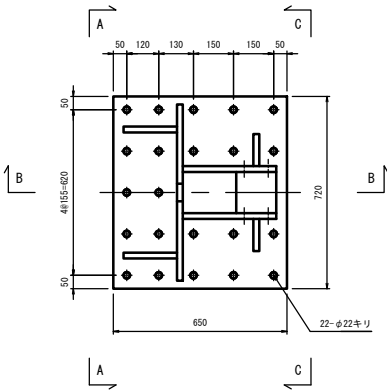
桁取付ブラケット詳細図

S = 1:10



上部エブラケット詳細図

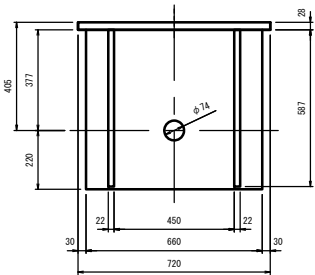
S = 1:10



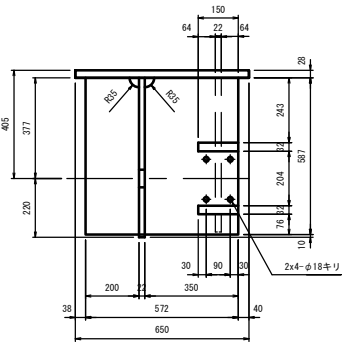
ブラケット材料 (一対当り)

1-PI	720x28x650	(SM490A)
1-PI	660x22x597	(SM490A)
2-PI	587x22x350	(SM490A)
2-PI	587x22x200	(SM490A)
2-PI	577x22x120	(SM490A)
2-PI	204x32x150	(SM490A)
22-Bolt	M20x 50	(強度区分8.8) 座金付

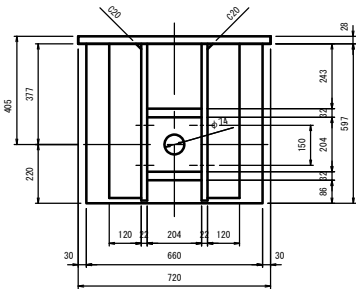
A - A



B - B



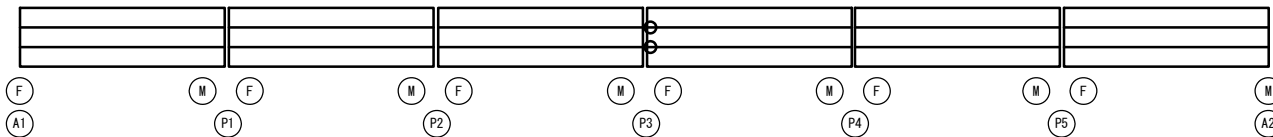
C - C



特記事項

1. 施工着手に先立ち、現地寸法等を確認し、製作時に鋼材の加工に反映すること。
2. 鋼材は全て亜鉛めっき (JIS H 8641, HDZ177)・イオニス・スプレー (防錆表面処理剤) とする。
3. ボルト類は亜鉛めっき (JIS H 8641, HDZ149) とする。
4. 溶接は全断面溶け込みグループ溶接とする。開先形状は指定しない。

配置図



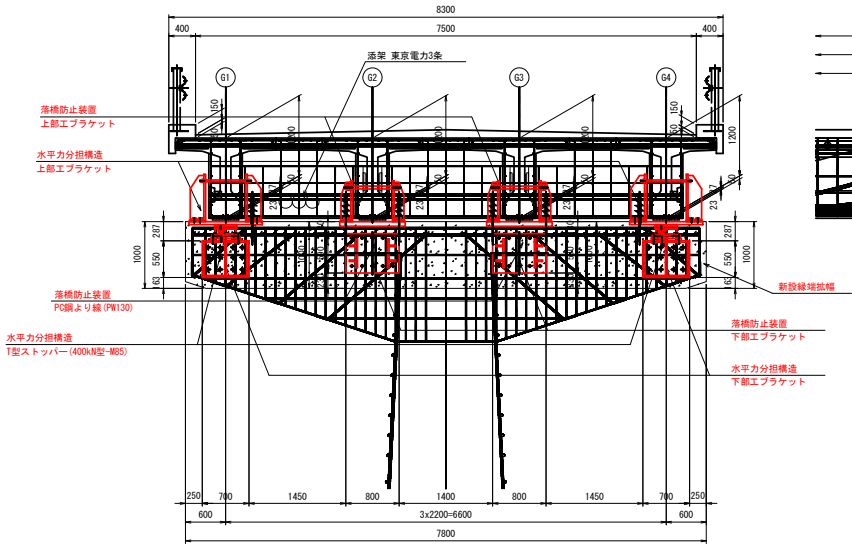
実施

工 事 名	市道1-10号線八幡橋側道橋補強・補修詳細設計業務委託		
図 面 名	八幡橋 P3橋脚(終点側) 落橋防止構造詳細図(その4)		
作成年月日	令和7年3月		
縮 尺	図 示	図面番号	4-29
会 社 名			
事務所名	山梨県笛吹市		

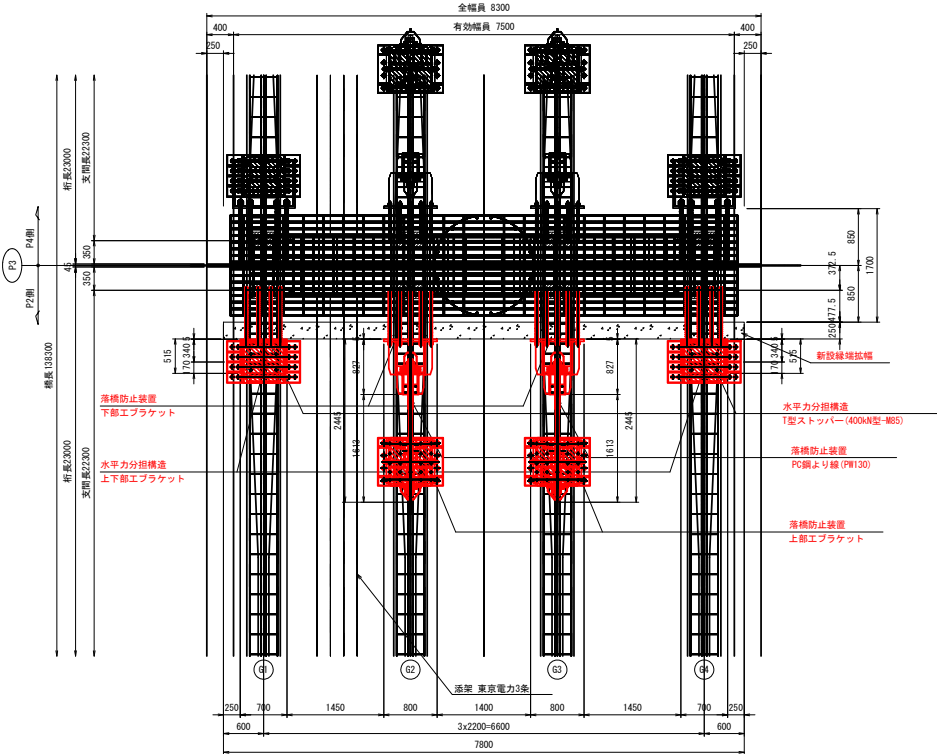
八幡橋 P3橋脚(起点側)耐震補強配置図

S=1:40

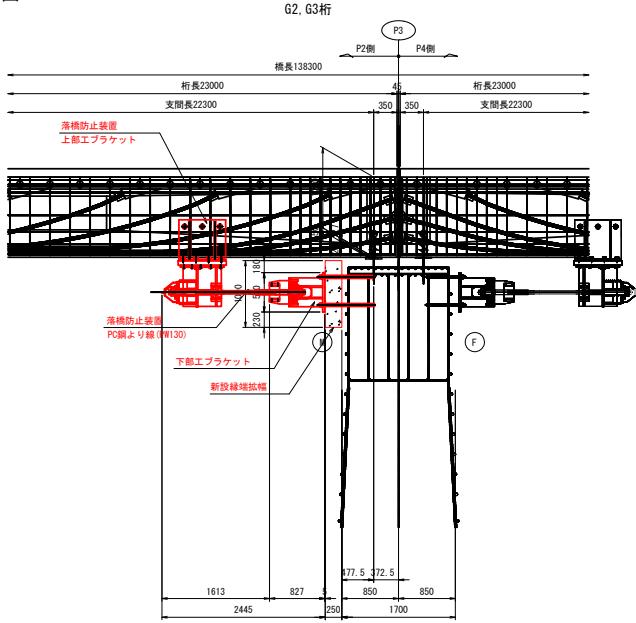
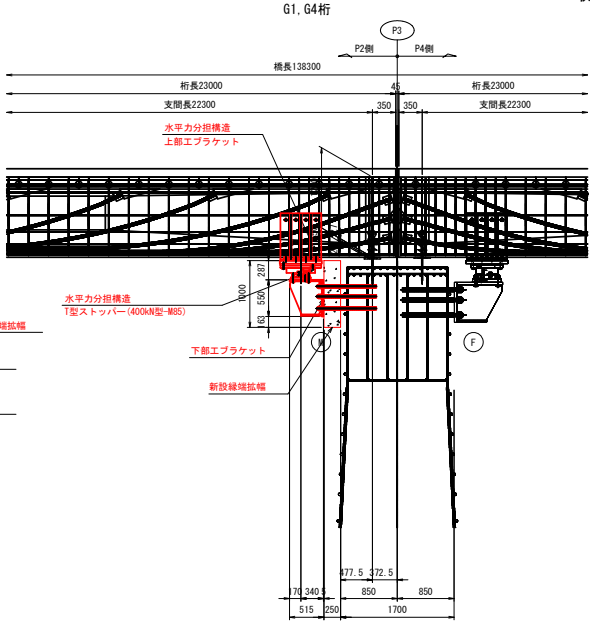
正面図



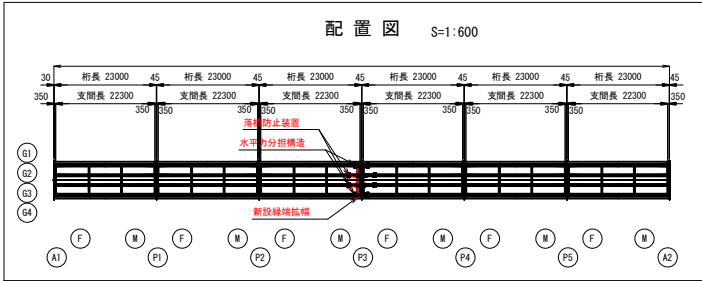
平面図



側面図



配置図 S=1:600



注記)

- 1) 施工にあたっては現地計測を行い、既設構造寸法等を再確認の上、取付構成の細節を精査すること。
 - 2) 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
- また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上、アンカー筋位置の調整を行うこと。変更する場合は、応力照査により安全性を確認すること。

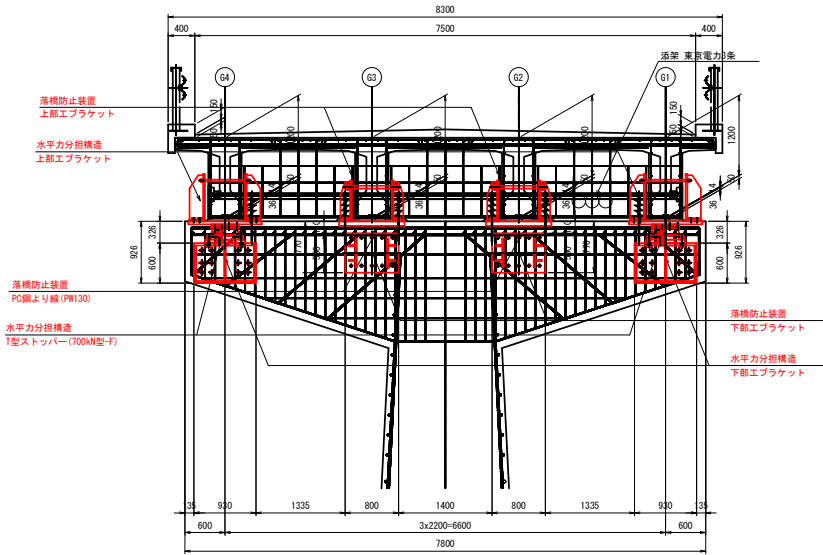
実施

工事名	市道1-20号線八幡橋耐震補強工事		
図面名	八幡橋 P3橋脚(起点側)耐震補強配置図		
作成年月日	令和7年3月		
図尺	図示	図面番号	4-55
設計者			
事務所名	山形県建設部		

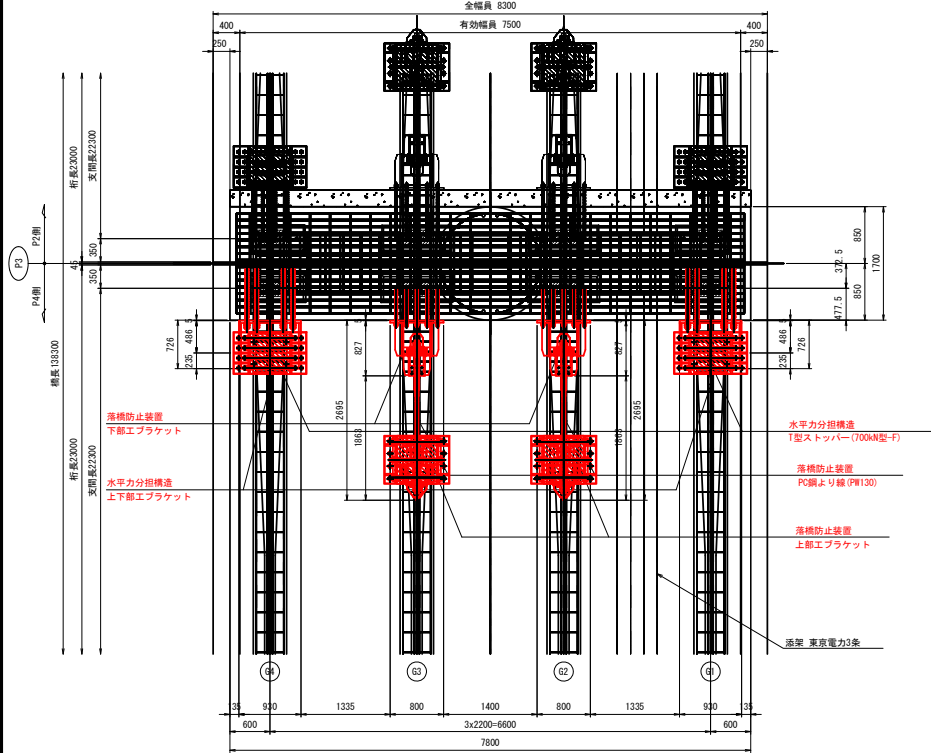
八幡橋 P3橋脚(終点側)耐震補強配置図

S=1:40

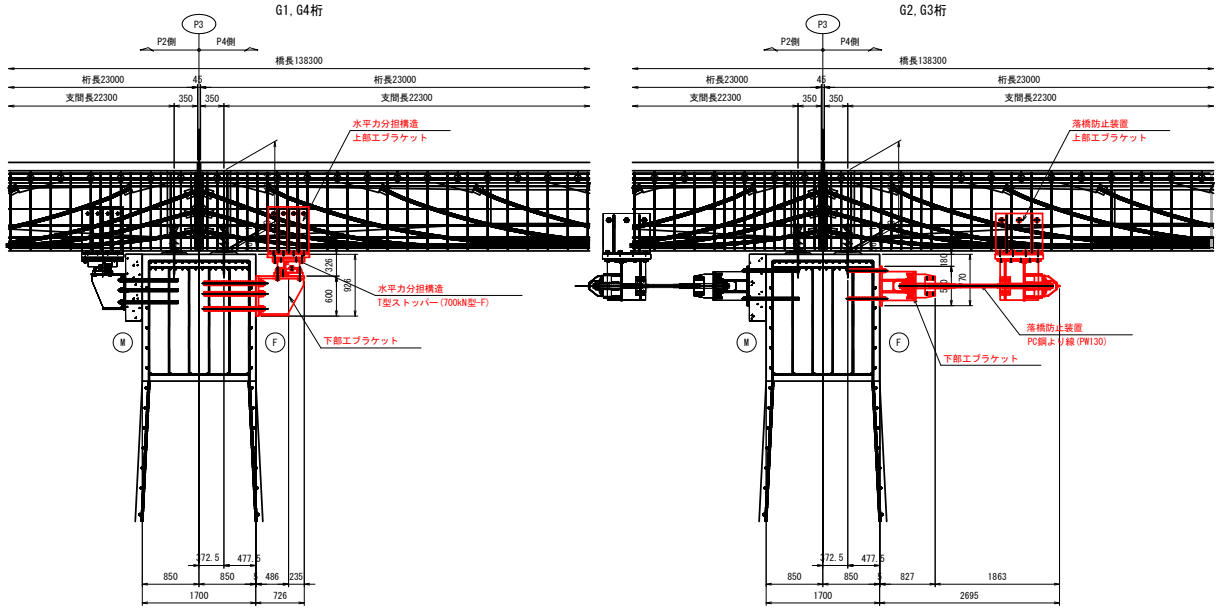
正面図



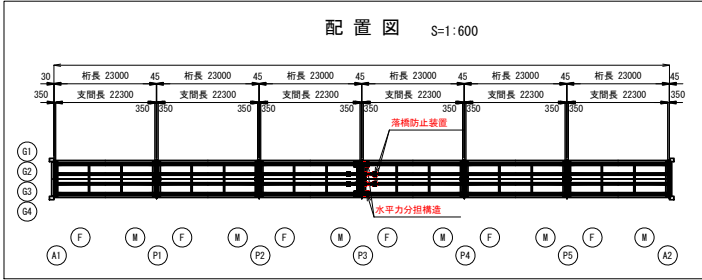
平面図



側面図



配置図 S=1:600



注記
1) 施工にあたっては現地計測を行い、既設構造寸法等を再確認の上、取付構成の細節を精査すること。
2) 既設コンクリートへの削孔の際は、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上、アンカー筋位置の調整を行うこと。変更する場合は、応力照査により安全性を確認すること。

実施

工事名	市道1-20号線八幡橋耐震補強・補修詳細設計業務委託		
図面名	八幡橋 P3橋脚(終点側)耐震補強配置図		
作成年月日	令和7年3月		
図尺	図示	図面番号	4-54
会社名			
事務所名	山形県建設部		

S=1:10

設計条件

死 荷 重 反 力		Rd	1100 kN
地 震 時 水 平 力	橋軸方向	RHe1	0 kN
	橋軸直角方向	RHe2	380 kN
設 計 遊 間 量	設計移動量	LE	70 mm
	余裕量	LA	15 mm
上 橋 力		V	170 kN

材料表 (1基当り)

部 号	品 名	材 質	数 量 (kg)	備 考
(1)	上 巻	SM490A	1	50.7
(2)	下 巻	SM490A	1	12.4
(3)	スッター	SCM135同等以上	1	5.3
(4)	固定プレート	SS400	2	2.0
5	すべり緩衝ゴム	GR-GM+TFE	4	1.6
(6)	六角穴付ボルト	—	4	0.1
(7)	六角ボルト (上巻)	—	4	0.9 座金付
(8)	六角ボルト (下巻)	—	4	0.9 座金付
(9)	ソールプレート	SM490A	1	52.4
(10)	ベースプレート	SM490A	1	39.6
(11)	アଙ୍କャーボルト	強度区分8.8	4	2.3 座金付
(12)	調整プレート	—	1	37.6
(13)	六角ボルト (両側)	—	4	1.8 座金付
全重量 (kg)			207.8	

(仮設部材)

部番	品 名	材 質	個数	質量 (kg)	備 考
14	仮固定用プレート	SS400	2	0.2	
15	仮固定ボルト		4	0.2	平座金付
16	スペーサー	SGP	2	0.1	

注) 1. ○ 内部品は、熔融亜鉛めっき仕様とする。

鋼板 (HDZT77)、ボルト・ナット類 (HDZT49)

☐ 内部品は、黒色酸化皮膜処理とする。

注) 2. 仮固定用プレート、スペーサーは、T型ストッパーセット後取り除く。

ねじ穴にはシール材にてコーキング処理の事。

注) 3. 仮固定用プレート、スペーサーは、高濃度亜鉛末塗装とする。

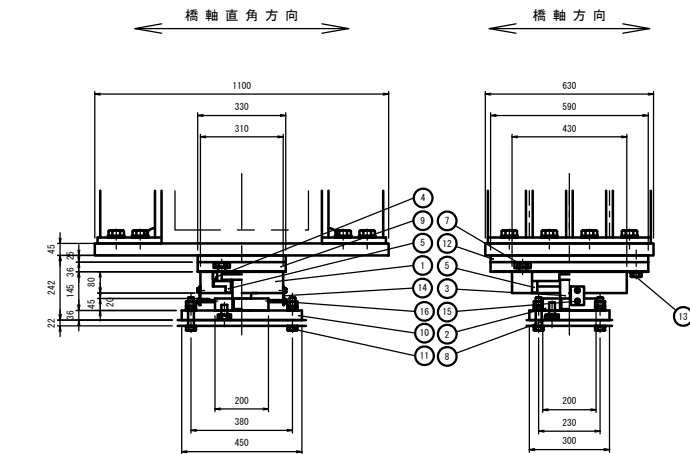
注) 4. T型ストッパーは、水平になるように設置する。

縦断勾配がある場合は、調整プレートで調整すること。

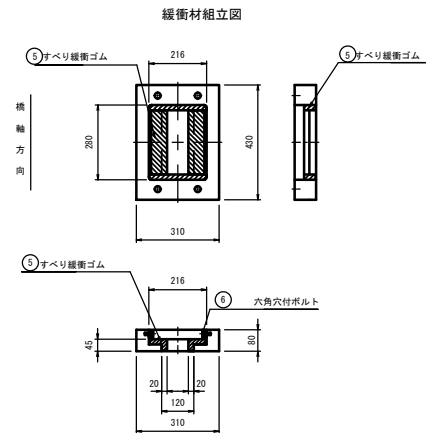
- | | | | |
|---|-----------|--------|-----------|
| ⑥ | 六角穴付きボルト | M8×16 | 強度区分 12.9 |
| ⑦ | 六角ボルト(上巻) | M22x40 | 強度区分 8.8 |
| ⑧ | 六角ボルト(下巻) | M22x45 | 強度区分 8.8 |
| ⑬ | 六角ボルト(桁側) | M24x85 | 強度区分 8.8 |
| ⑮ | 仮固定ボルト | M8x16 | 強度区分 4.8 |
| | | M8x70 | 強度区分 4.8 |

实施

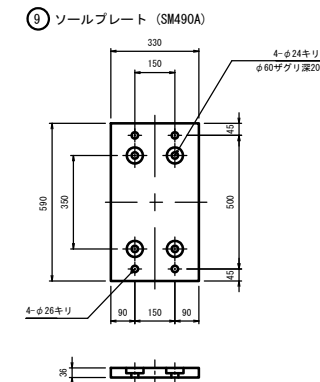
工 事 名	市道1-20号橋八橋橋脚震害補強 ・補修詳細設計業務委託		
図 面 名	八橋橋 P3橋脚（起点側）水平力分担構造詳細図（その1）		
作成年月日	令和7年3月		
縮 尺	図 示	図面番号	5-16
会 社 名			
事務所名	山梨県豊牧市		



T型ストッパー詳細図

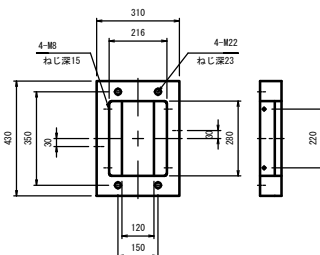


緩衝材組立図

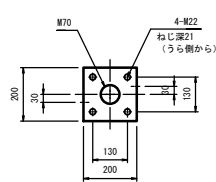


⑨ ソールプレート (SM490A)

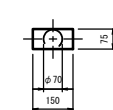
- ① 上 沓 (SM490A) ② 下 沓 (SM490A) ③ ストッパー (SCM435同等以上) ④ 固定プレート (SS400)



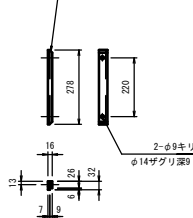
① 上 沓 (SM490A)



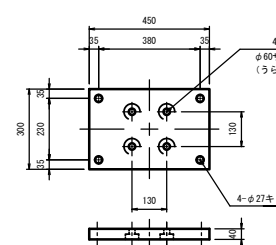
② 下 沓 (SM490A)



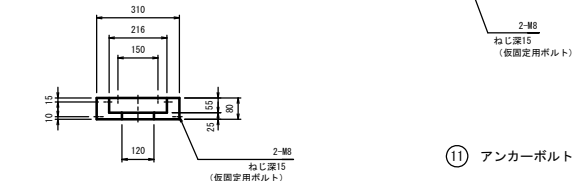
③ ストッパー (SCM435同等以上)



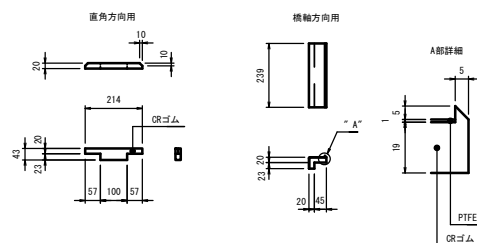
④ 固定プレート (SS400)



⑩ ベースプレート (SM490A)



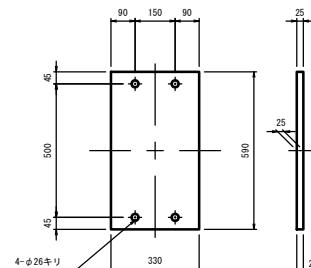
⑤ すべり緩衝ゴム (CRゴム+PTFE)



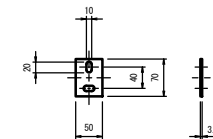
⑪ アンカーボルト (強度区分8.8)



⑫ 調整プレート (SM490A)



⑭ 仮固定用プレート S=1/5
(SS400)



⑬ スペーサー S=1/5
(SGP)



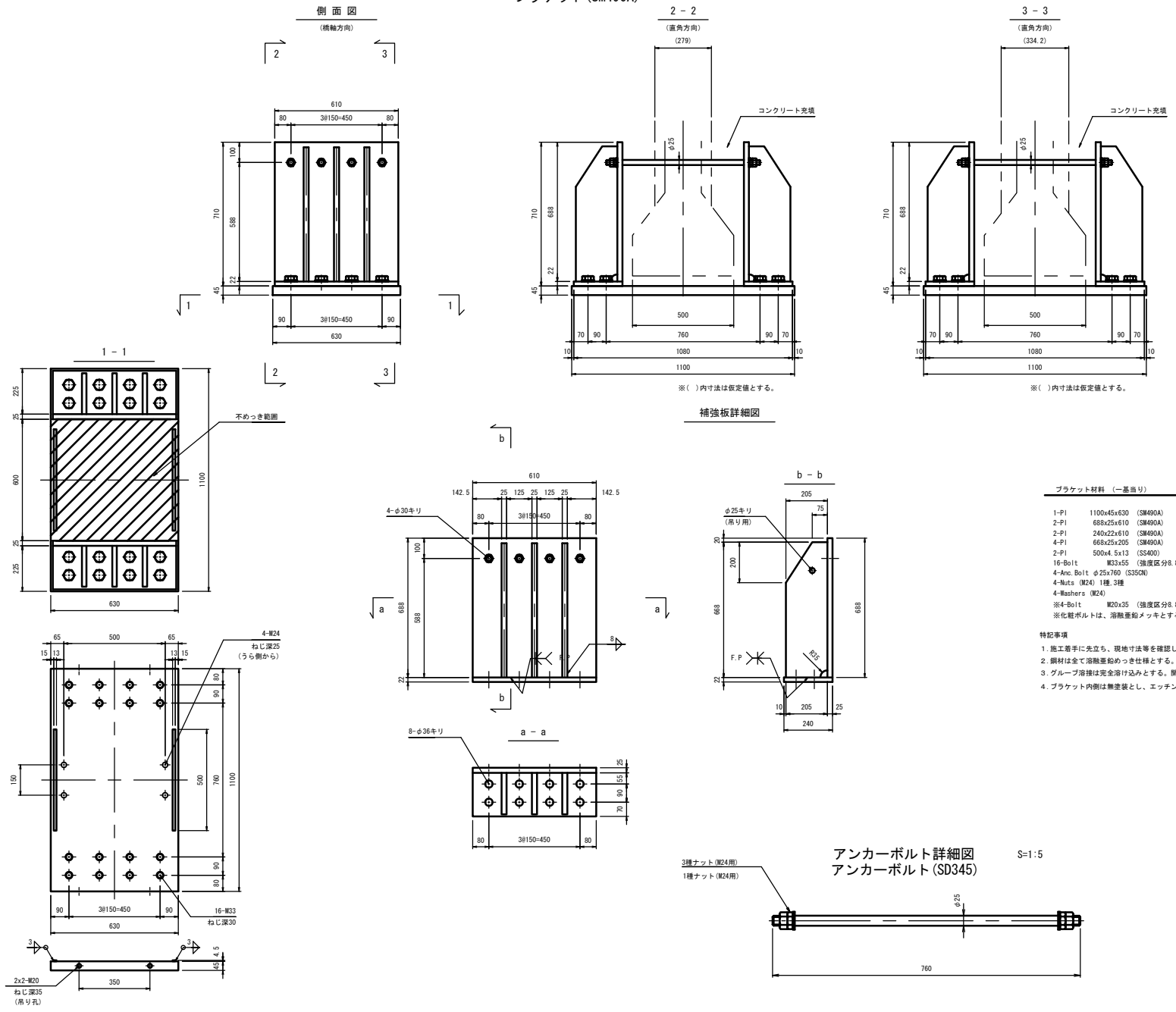
※ ボルト長は、定着部板厚を確認して決定すること。

八幡橋 P3橋脚(起点側) 水平力分担構造詳細図(その2)

S=1:10

桁取付ブラケット詳細図
ブラケット (SM490A)

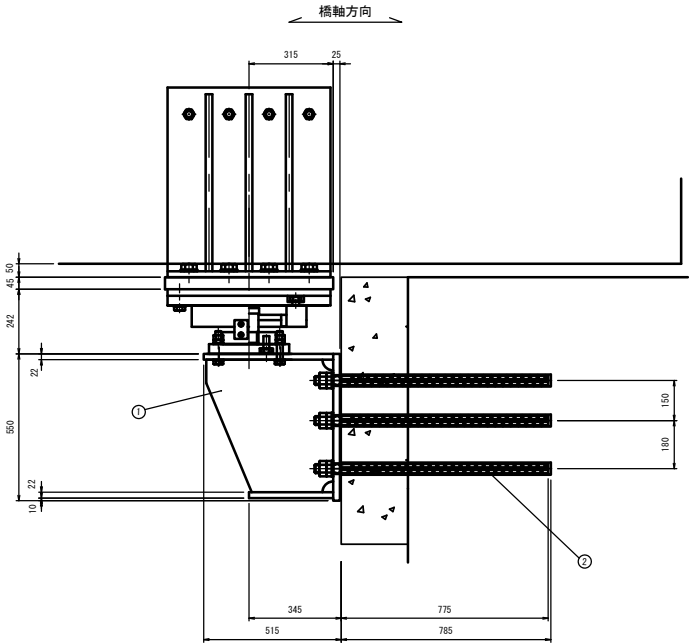
S = 1:10



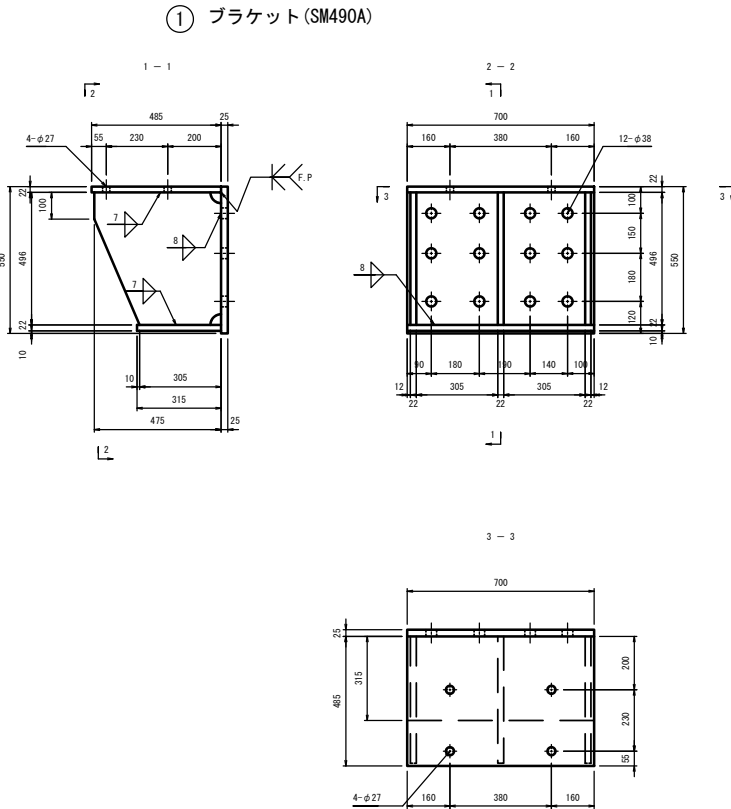
実施

工事名	市道1-20号線八幡橋側道橋補強・補修詳細設計業務委託		
図面名	八幡橋 P3橋脚(起点側) 水平力分担構造詳細図(その2)		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	図示	図面番号	5-17
会社名			
事務所名	山梨県笛吹市		

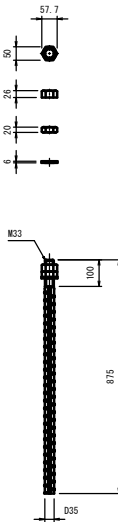
取付図



下部エブラケット詳細図

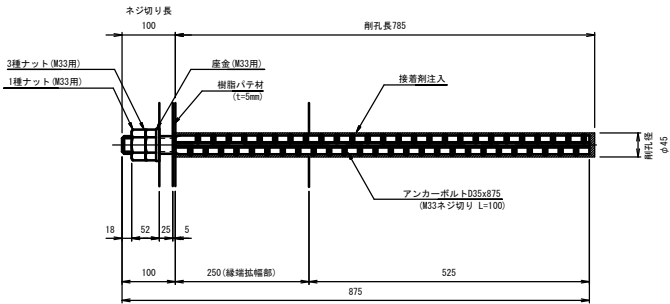


② アンカーボルト (SD345)



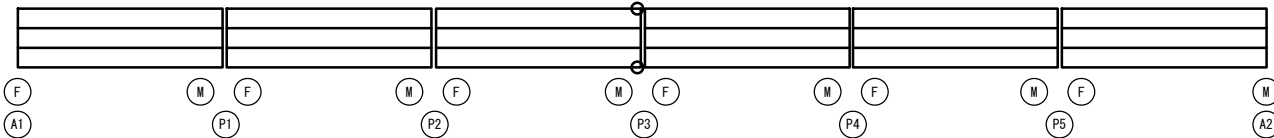
アンカーボルト詳細図

S=1:5



注記)
1. スカーラップは35Rとする。
2. 鋼材は全て溶融亜鉛めっき仕様とする。鋼板 (HDZ177)、ボルト・ナット類 (HDZ149)

配置図



実施

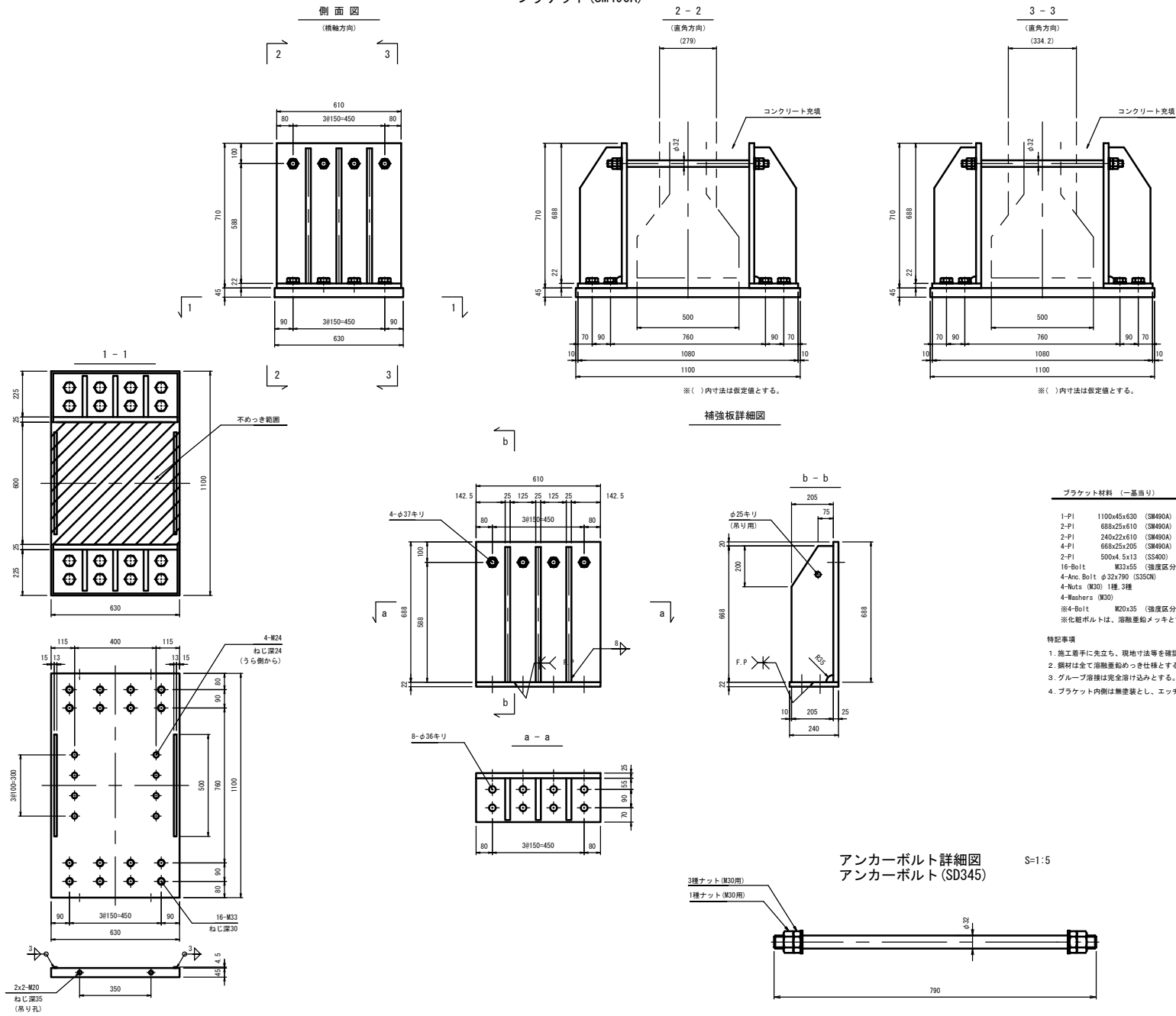
工事名	市道1-20号線八幡橋側道路補強・補修詳細設計業務委託		
図面名	八幡橋 P3橋脚(起点側) 水平力分担構造詳細図(その3)		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	図示	図面番号	5-18
会社名			
事務所名	山梨県笛吹市		

八幡橋 P3橋脚(終点側) 水平力分担構造詳細図(その2)

S=1:10

桁取付ブラケット詳細図
ブラケット (SM490A)

S = 1:10

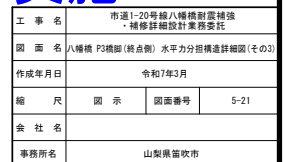


実施

工事名	市道1-20号線八幡橋側道橋補強・補修詳細設計業務委託		
図面名	八幡橋 P3橋脚(終点側) 水平力分担構造詳細図(その2)		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	図示	図面番号	5-20
会社名			
事務所名	山梨県塩尻市		

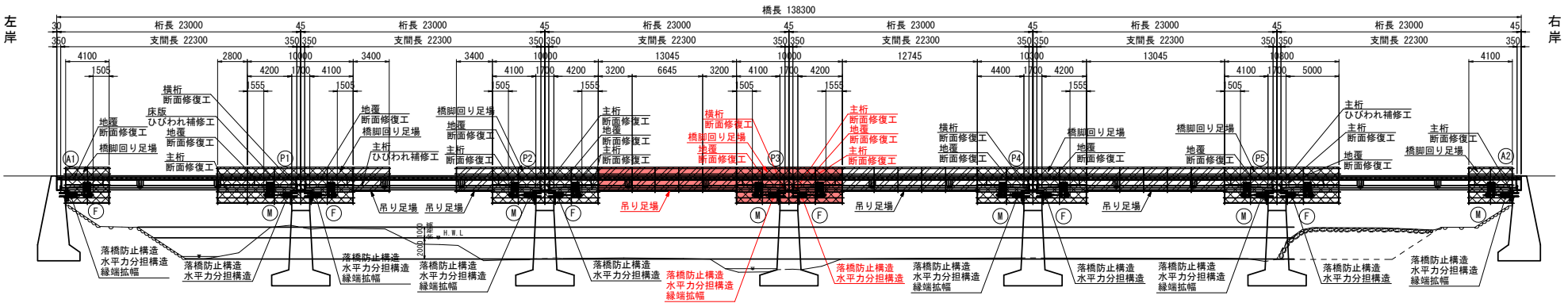
S=1:10

橋軸方向 

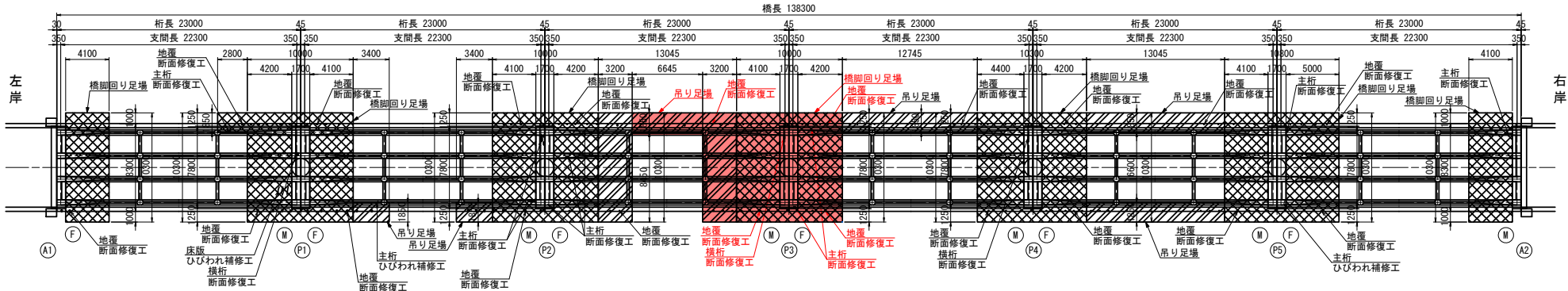


八幡橋 橋脚回り足場・吊り足場計画図 参考図 S=1:200

側面図

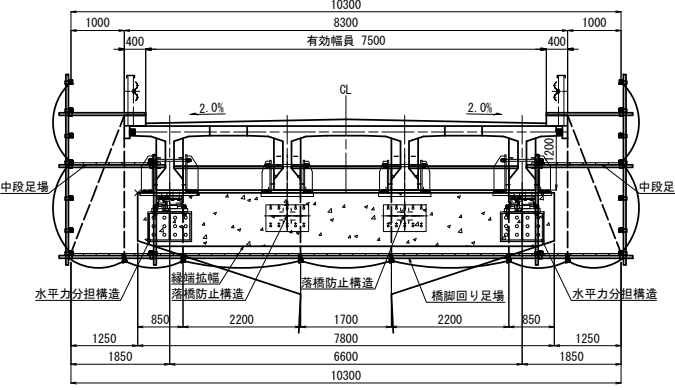


平面図



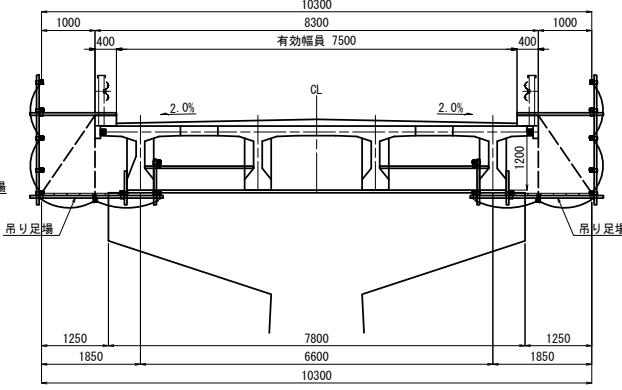
橋脚回り足場断面図 S=1:50

耐震補強工用



吊り足場断面図 S=1:50

地覆断面修復工用



足場工数量

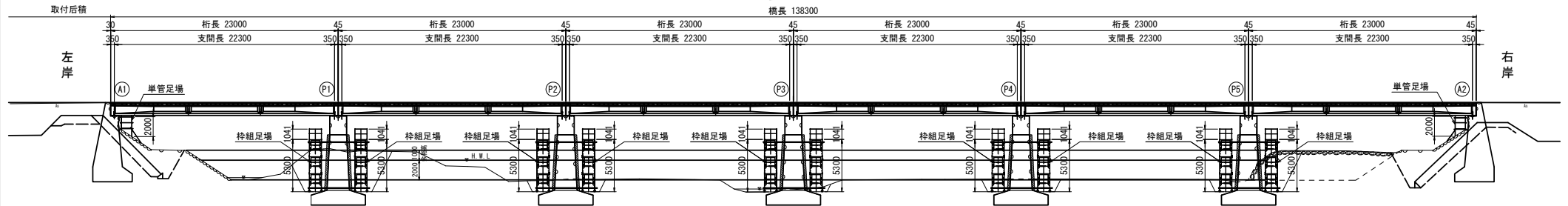
	細 目	計 算 式	単位	数 量	備 考
吊り足場 (橋脚回り足場)		A = 4.100 × 10.300	m ²	548.0	
		+10.000 × 10.300 - 1.700 × 7.800 + 2.800 × 1.250			
		+10.000 × 10.300 - 1.700 × 7.800			
		+10.000 × 10.300 - 1.700 × 7.800			
		+10.300 × 10.300 - 1.700 × 7.800			
		+10.800 × 10.300 - 1.700 × 7.800			
		+ 4.100 × 10.300			
吊り足場		A = 3.400 × 1.850 × 2	m ²	162.6	地覆断面修復工用
		+10.300 × 3.200 × 2 + 6.645 × 1.850			
		+12.745 × 1.850			
		+13.045 × 1.850 × 2			

参考図

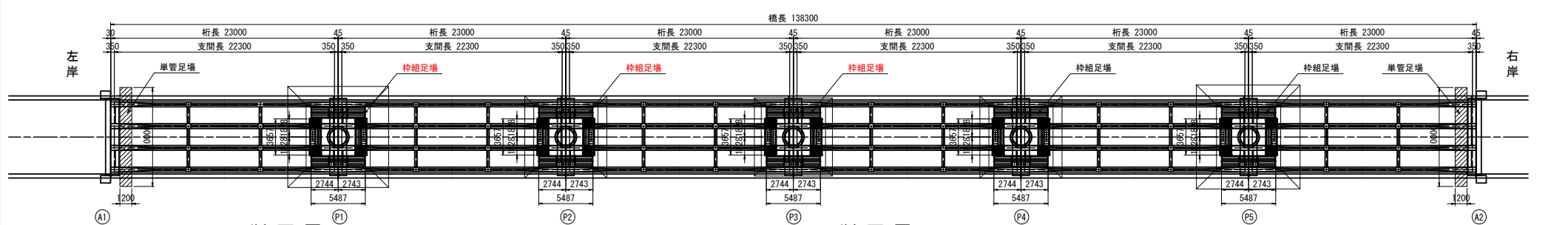
工 事 名	市道1-20等線八幡橋耐震補強 ・補修詳細設計業務委託		
図 面 名	八幡橋 橋脚回り足場・吊り足場計画図 参考図		
作成年月日	令和7年3月		
縮 尺	図 示	図面番号	7-1
会 社 名			
事務所名	山梨県環状市		

八幡橋 橋脚補強足場計画図 参考図 S=1:200

側面図

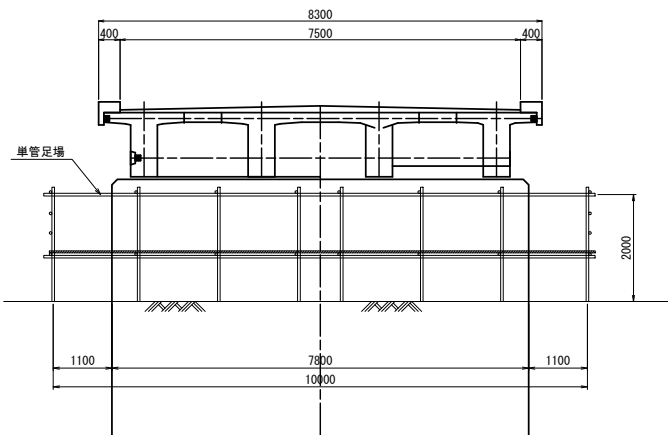


平面図

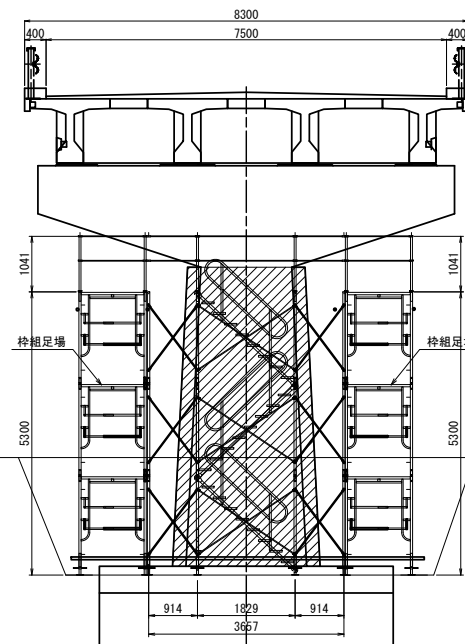


断面図
(A1, A2橋台)

断面図
(P1~P5橋脚)



() 内寸法はA1橋台を示す



足場工数量

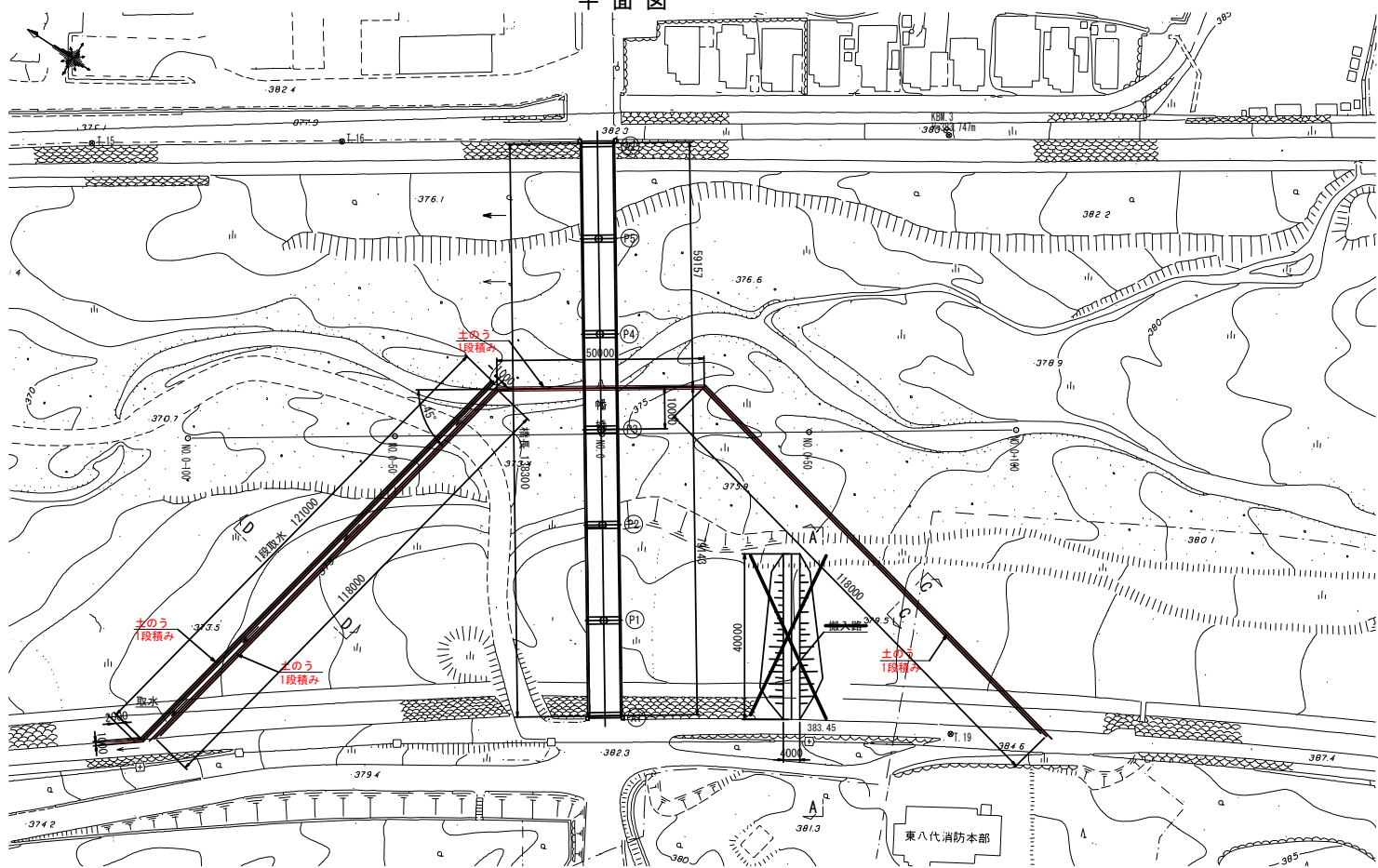
細目	計算式	単位	数量	備考
吊場工				
枠組足場 (TYPE G)	$A = (3.657 + 5.487) \times 2 \times 5.300 \times 5$	掛 m^2	484.6	P1~P5
単管足場	$A = 10.000 \times 2.000 \times 2$	掛 m^2	40.0	A1, A2

参考図

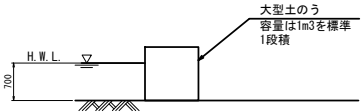
工 事 名	市道1-20号線八幡橋側道補強 ・補修詳細設計業務委託			
図 面 名	八幡橋 橋脚補強足場計画図 参考図			
作成年月日	令和7年3月			
縮 尺	図 示	図面番号	7-2	
会 社 名				
事務所名	山梨県笛吹市			

八幡橋 仮締切工計画図(その1) 参考図 S=1:600
(左岸側施工時)

平面図



仮締切工断面図 S=1:50
C - C



搬入路数量表

項目	種別	単位	数量	備考
盛土		m ³	566.0	
砕石	RC40	m ²	120.6	t=0.1m
残土処理		m ²	566.0	

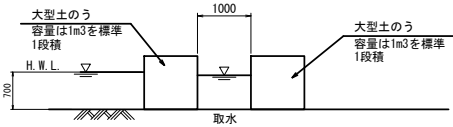
仮締切工数量表

項目	種別	単位	数量	備考
仮締切工	流水延長	m	286.0	
土のう		m ³	286.0	
		袋	286	容量は1m3を標準

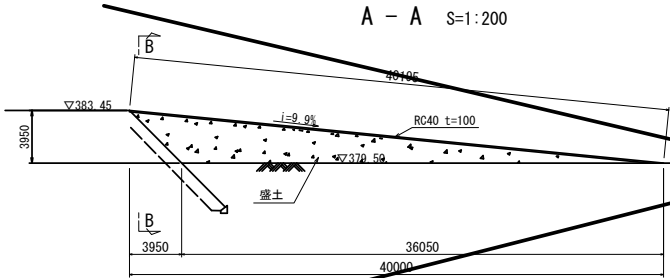
取水工数量表

項目	種別	単位	数量	備考
取水工	流水延長	m	123.0	
土のう		m ³	123.0	
		袋	123	容量は1m3を標準

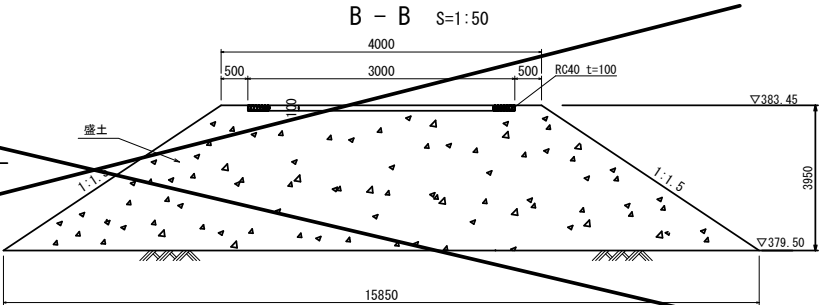
D - D S=1:50



A - A S=1:200



B - B S=1:50



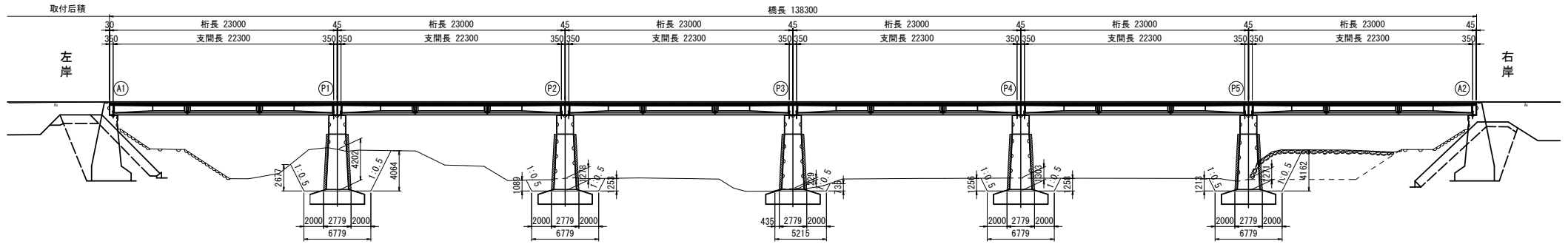
参考図

※大型土量は現状地盤に合わせること。

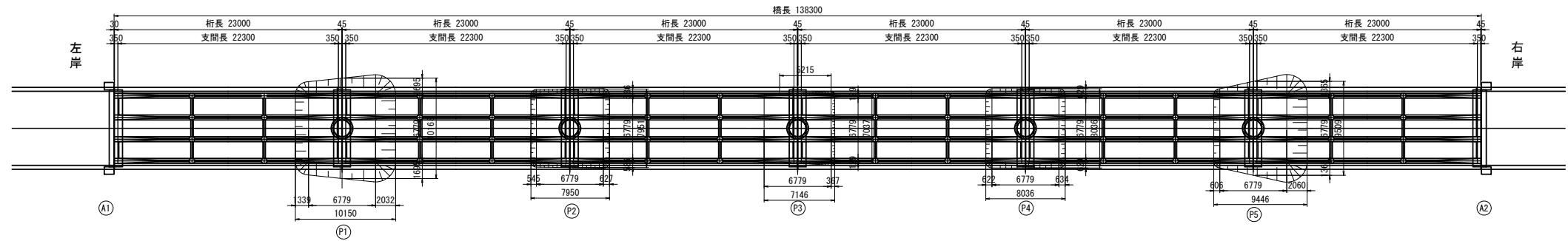
工事名	市道1-20号線八幡橋側道補強・補修詳細設計業務委託
図面名	八幡橋 仮締切工計画図(その1) 参考図
作成年月日	令和7年3月
縮尺	図示 図面番号 7-5
会社名	
事務所名	山梨県星牧市

八幡橋 土工計画図 S=1:200

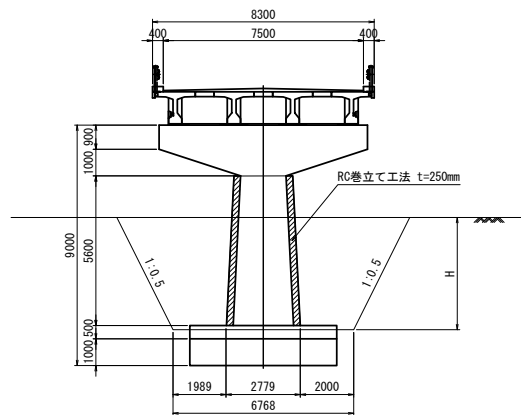
側面図



平面图



断面図 S=1:100



橋脚	高さ(H) (m)
P1	4.202
P2	1.278
P3	0.229
P4	1.303
P5	1.271

土工数量

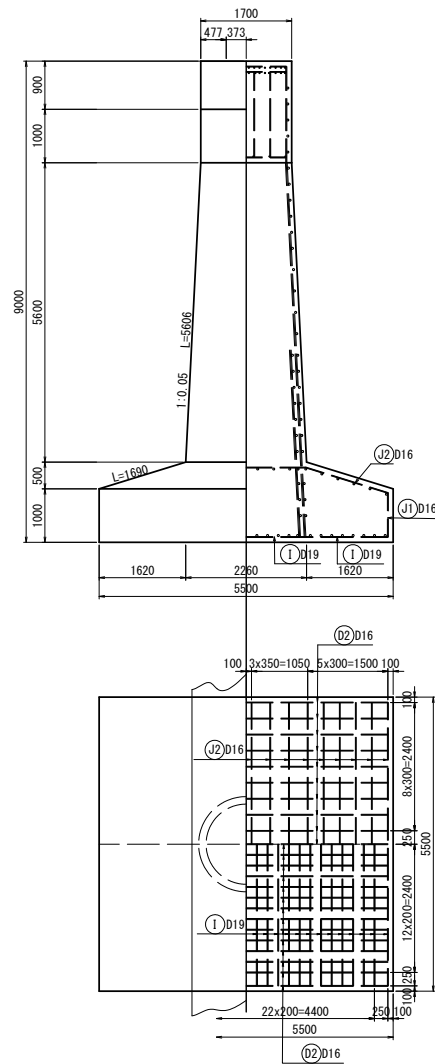
	細 目	単位	数 量					合 計
			P1	P2	P3	P4	P5	
土工	掘削工	m3	259.6	57.0	7.4	62.5	148.1	534.6
	埋戻し	m3	252.3	54.9	7.4	60.3	139.6	514.5
	残土	m3	7.3	2.1		2.2	1.8	13.4

参考図

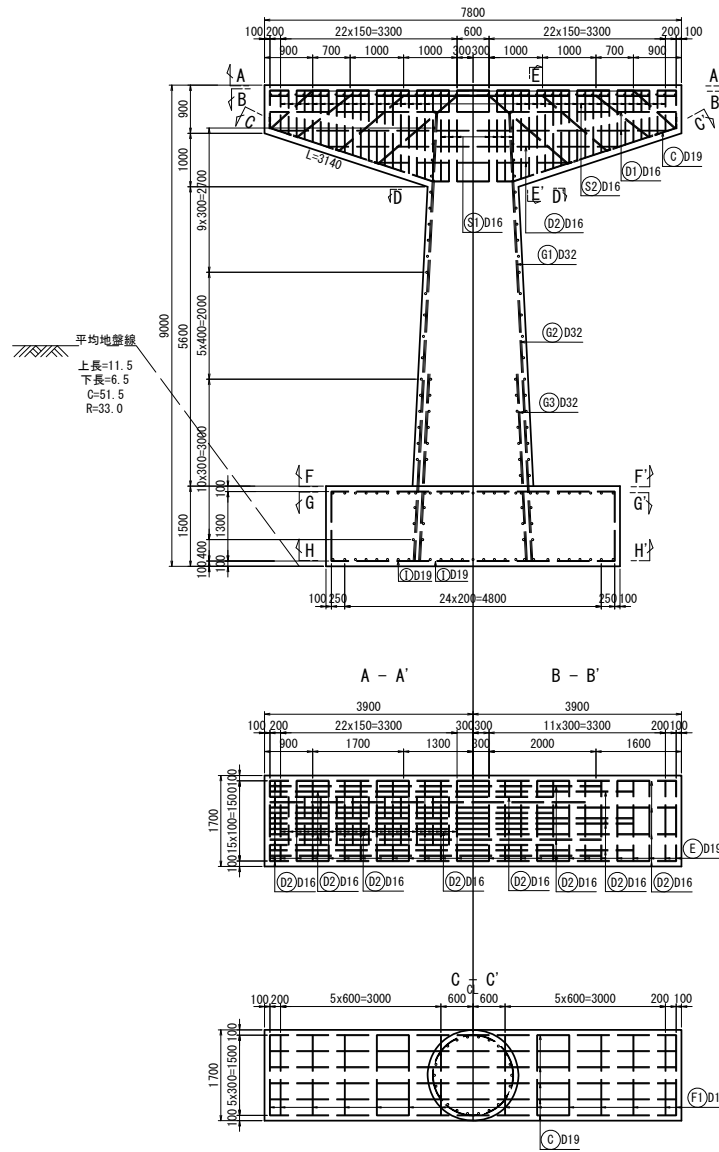
工 事 名	市道1-20号縱八橋橋防震補強 ・橋修詳細設計業務委託		
図 面 名	八橋橋 土工計画図		
作成年月日	令和7年3月		
縮 尺	図 示	図面番号	7-7
会 社 名			
事務所名	山梨県豊牧市		

八幡橋 橋脚配筋復元図 S=1:50

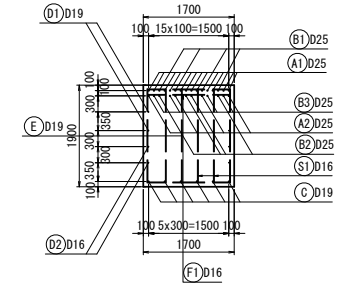
側面図



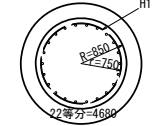
断面図



E - E'



D - D'



F - F'

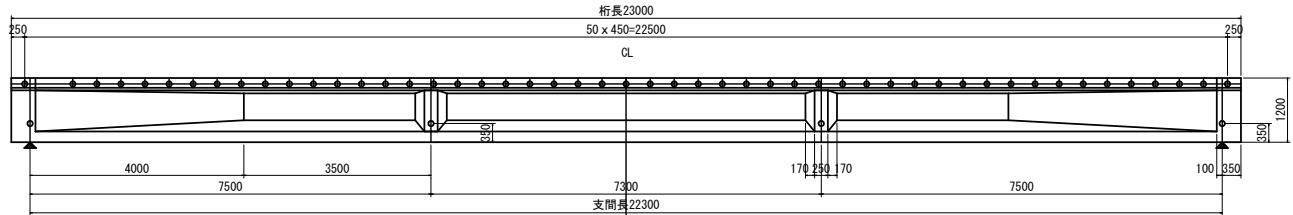


参考図

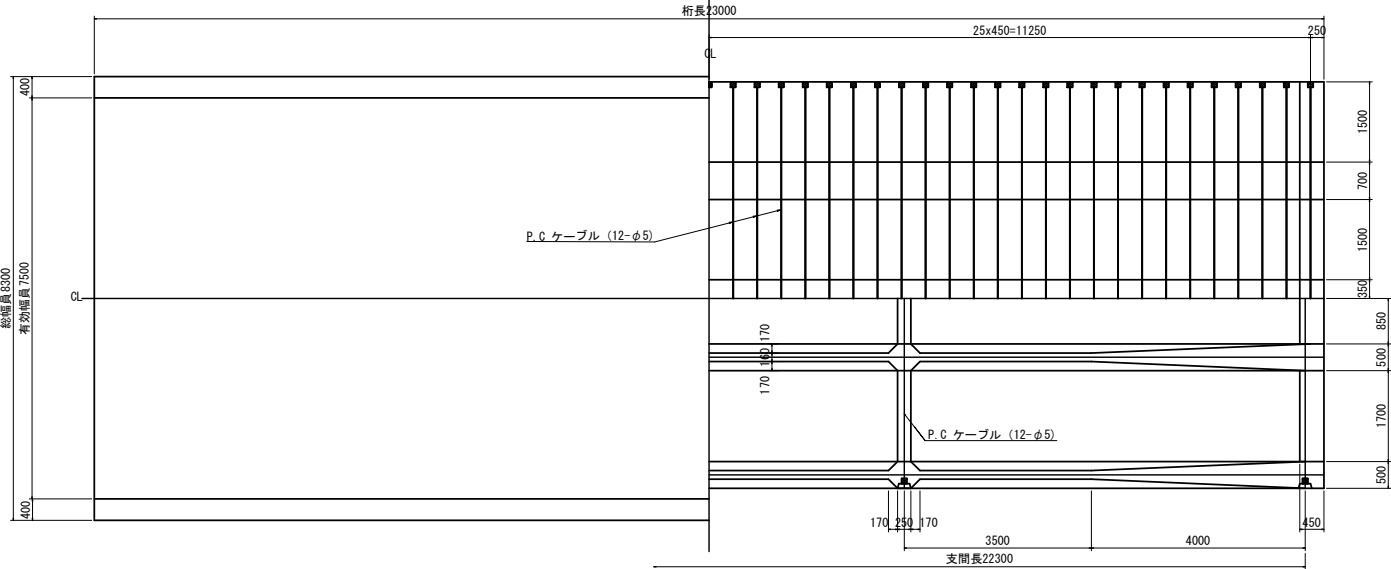
工事名	市道1-20号線八幡橋側道補強 補修詳細設計業務委託		
図面名	八幡橋 橋脚配筋復元図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	図示	図面番号	8-4
会社名			
事務所名	山梨県笛吹市		

八幡橋 上部工復元図 S=1:50

側面図



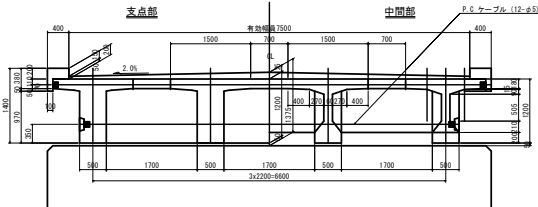
平面図



設計要項

種 別	プレストレストコンクリート道路橋
形 式	ポストテンション方式T形単純桁
橋 長	138.300m
プレストレス	主桁 パーシャル プレストレッシング床版 レッシング
桁 長	23.000m
支 間	22.300m
有効幅員	7.500m
活荷重	TL-20
衝撃係数	主桁 $i=10/(25+1)$ 横桁床版 $i=20/(50+1)$
斜 角	LR

断面図 S=1:50



参考図

工 事 名	市道1-20号線八幡橋側電柱補強・補修詳細設計業務委託
図 面 名	八幡橋 上部工復元図
作成年月日	令和7年3月
縮 尺	図 示
図 面 番 号	8-5
会 社 名	
事務所名	山梨県笛吹市